

第7表 A区出土土器観察表⑦

発掘区画番号	番号	遺構等	種類	法量 (m) ( ) : 復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上・下・量)					備考	実測番号
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D		
P29 第26区	157	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	6.2	—	75YR5/3 にぶい赤褐	75YR4/3	真	糸痕	糸痕、ナデ	3	微				底面、内面に黒痕あり 白色粘土	373
	158	AⅡ層	縄文土器 深鉢	—	6.45	—	75YR5/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良好	糸痕	糸痕、ナデ	5	少	2			底面、外面に黒痕あり	369
P30 第27区	159	AⅡ層	縄文土器 台付皿	(23)	—	—	75YR7/1 明褐色	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	ミガキ	ミガキ	3	1	少				400
	160	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	75YR4/2 灰褐	良好	灰いナデ	工具によるナデ	微	多					249
	161	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	75YR5/3 にぶい赤褐	75YR5/3 にぶい赤褐	良好	糸痕	且磨削突文、糸痕の後ナデ	0.5						309
	162	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/2 灰褐	75YR4/2 灰褐	良好	工具によるナデ	ナデ	微	多	微				252
	163	AⅡ層	縄文土器 台付皿	(278)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	75YR4/2 灰褐	良好	工具ナデ	工具ナデ	3	2	多			後期中葉	394
	164	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	75YR5/2 灰褐	25YR5/2 灰赤	良好	縦・斜方向への糸痕、ナデ	縦・斜方向への糸痕、ナデ	1	微				後期前葉 内面に赤色 磨削あり	229
	165	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	10YR4/1 褐	良好	ミガキ	ミガキ	2	1	微			後期中葉 内面に黒痕 あり	308
	166	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	75YR5/3 にぶい赤褐	良好	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ、凹線文	3	1	多			後期中葉	397
	167	AⅡ層	縄文土器 台付皿	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐	75YR5/2 灰褐	良好	ナデ、貼付突帯	糸痕の後ナデ	4	微	少				436
	168	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	5YR4/2 灰褐	10YR4/3 にぶい赤褐	良好	ナデ	ミガキ?	2	1	微				403
P31 第28区	169	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	75YR4/2 灰褐	10YR4/1 褐	良好	ナデ	ナデ	3	1.5	微			後期中葉	399
	170	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	5YR4/2 灰褐	75YR4/2 灰褐	良好	ナデ	ナデ	4	2	1.5	多			396
	171	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(14.4)	—	5YR4/3 にぶい赤褐	75YR5/2 灰褐	良好	横・斜方向の糸痕、ナデ	工具によるナデ	3	多					221
	172	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(9.1)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	3YR5/4 にぶい赤褐	真	糸痕の後ナデ、筋ナデ、ナデ		2	微					395
	173	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	(5.5)	—	75YR5/2 灰褐	75YR5/2 灰褐	良好	ナデ、凹線文	ナデ	2	少				後期中葉 穿孔あり	300
	174	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	75YR5/3 にぶい赤褐	75YR5/2 灰褐	良好	ナデ、やや風化	ナデ	4	微	少				245
	175	AⅡ層	縄文土器 台付鉢or皿	—	—	—	75YR5/2 灰褐	75YR5/3 にぶい赤褐	良	ナデ	ナデ		1	多				273
	176	AⅡ層	土器加工 円盤	—	—	—	75YR5/3 にぶい赤褐	75YR5/3 にぶい赤褐	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ		1	微					578
	177	AⅡ層	土器加工 円盤	—	—	—	75YR5/3 にぶい赤褐	75YR5/3 にぶい赤褐	真	ナデ	糸痕		1	微				579
	178	AⅡ層	土器加工 円盤	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐	25YR4/1 赤灰	良	糸痕	糸痕の後ナデ	1	微	少				577
P34 第31区	180	SE3	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい赤褐	75YR5/4 にぶい赤褐	良好	糸痕	糸痕	2	微	微			糸痕 内面に黒痕あり	402
	181	SE3	縄文土器 深鉢	—	10.8	—	5YR5/3 にぶい赤褐	10YR7/1 灰白	良好	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	3	1	少			底面	401
	182	SE3	縄文土器	—	(9.8)	—	5YR5/3 にぶい赤褐	75YR4/2 灰褐	真	糸痕の後ナデ	糸痕	5	1	多			髷台 内面に黒痕あり	404
			深鉢															

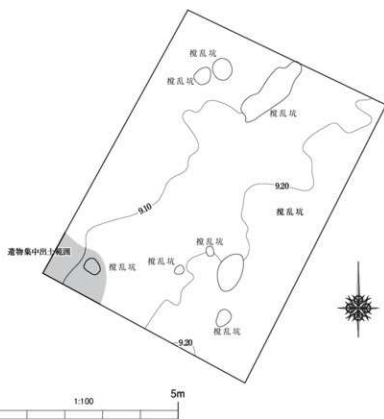
第8表 A区出土土器観察表⑧

発掘 図番号	番号	遺構等	種類	法量 (cm) ( ) : 復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上 : mm 下 : 量)					備考	実測 番号		
				口徑	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E				
				—	—	—	75YR5/3 にぶい黄褐	2.5YR4/3 にぶい赤褐											良好	外面の残ナデ
P34 第316区	183	AⅢ層	縄文土器	—	—	—	75YR5/3 にぶい黄褐	2.5YR4/3 にぶい赤褐	良好	円錐文に棒状刺突文、 ナデ。外面の残ナデ、 指ナデ、キナシ	外面の残ナデ	微 1.5	多				底面 口徑 部にキナシ	420		
			深鉢	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良好	赤褐色	赤褐色	1 少						春日式	443	
	185	AⅢ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/1 黒灰	良好	貝殻刺突文、突帯に キナシ	ナデ	2 微多						船元系	419	
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	赤褐色の残ナデ、つま みによる船付突帯	赤褐色	3 少		1 少				円錐状器 口徑部にキナシ 外面に並線あり	415	
	187	AⅢ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良	ナデ、指ナデ、指ナ デ、つまみによる 船付突帯	赤褐色の残ナデ	2 微多						川水成層	416	
			深鉢	—	—	—	2.5YR4/3 オリーブ褐	7.5YR4/2 灰褐	良	ナデ、つまみによる 船付突帯	赤褐色	4 少	1 微						市来	437
P35 第326区	189	SE3	縄文土器	—	—	—	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	赤褐色、貝殻刺突文	ナデ	4 1						市来	405	
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	良好	赤褐色の残ナデ、ナデ、 刺突文	赤褐色の残ナデ	2 1		1 少					市来	417
	191	AⅢ層	縄文土器	—	—	—	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良	磨減により不明、貝 殻刺突文	赤褐色								丸尾B	422
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良好	赤褐色、貝殻押引き	赤褐色の残ナデ	3 1		1 少					丸尾A 外面に並線 あり	421
	192	AⅢ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良好	貝殻押引き、赤褐色 ナデ	赤褐色ナデ	1 微多							丸尾A	441
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい赤褐	良好	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	1 微多							後期前葉	418
194	AⅢ層	縄文土器	—	—	—	7.5YR7/1 明褐色	7.5YR3/1 黒褐	良好	ナデ、赤褐色、貝殻刺 突文	赤褐色	2 2							丸尾B	413	
		深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい赤褐	良	ナデ	ナデ	2 1							底面	412	

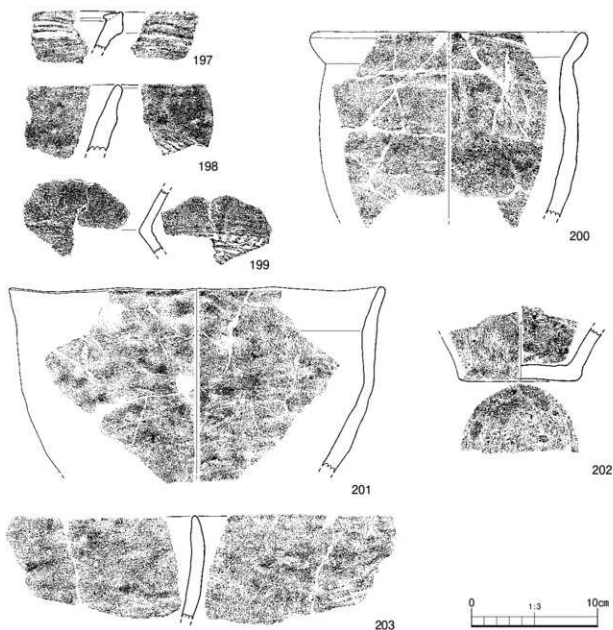
## 第5節 B区の調査（第33図）

B区は調査地の南東部の調査区である。A区と同様、建物基礎が設けられる位置にあたる。短軸6.0m、長軸8.3mの調査面積49.8㎡を測る長方形の調査区である。現地表面以下の整地用に施された盛土層（I a層）が約1.3m堆積し、その直下には、調査区南西の一部でII層の堆積が遺存していたものの、I a層の直下にV層が露頭している状態で、I a層に多量に含まれる岩砕がV層の表面に押しつぶされるように残っており、岩砕が入っていたくぼみが検出されたV層表面の所々に残った。結果、B区では遺構は確認されず、調査区南西の一部遺存していたII b層の堆積が認められたのみで、出土遺物もII b層に包含された遺物（第34図、第57図377）のみである。

197～203はB区II b層で出土した土器である。197は松山式土器で口唇部には内傾する面を持ち、面上には沈線を施す。198は小破片であるが、丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一帯と思われる。199は西平式土器と思われる、くの字に外反する口縁部を持ち、屈曲部の下に連点文とその下に沈線を施す。器壁は薄手である。200は、くの字に外反する短い口縁部を持ち、胴部は丸味を帯びる。粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。201は口が大きく開き、器高は低いと思われる。粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。202は口縁部が内湾しながら立つ。200、201同様に粗雑な作りで器壁は厚く、粗いナデ仕上げである。202は口縁部が内湾しながら立つ。



第33図 B区調査区図（1/100）



第34図 B区出土土器実測図(1/3)

第9表 B区出土土器観察表

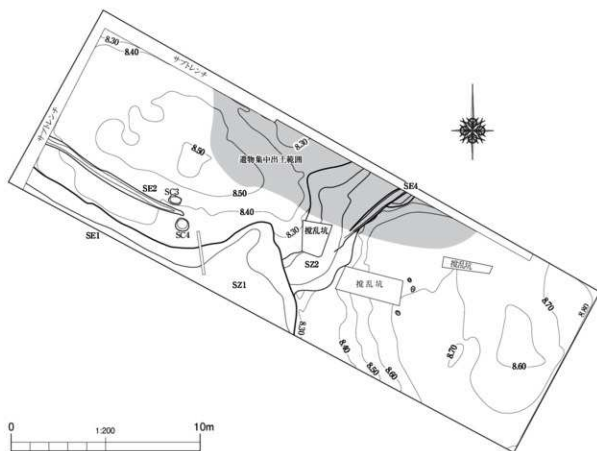
採集 図番号	番号	遺構等	種別	寸法(cm)			色		調	焼成	調整		土土(上mm 下量)					備考	実測 番号	
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	A	B	C	D	E			
P45 第34図	197	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 に濃い赤褐	5YR6/4 に濃い橙	良好	条痕状十字	条痕状十字	1 微	—	—	—	—	—	—	杉山式	571
	198	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐	良好	十字、刺突文	十字	4 多	1 少	—	—	—	—	外面に黒痕 あり	570	
	199	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	N3-0 相灰	7.5YR4/1 黄灰	良好	凹線文、刺突文、十字	十字	3 少	1 多	1 微	—	—	—	西方式?	574	
	200	BⅡ層	縄文土器 深鉢	(21)	—	—	7.5YR5/3 に濃い赤褐	2.5YR5/3 に濃い赤褐	良好	十字	十字	3 少	1 多	—	—	—	—	573		
	201	BⅡ層	縄文土器 深鉢	(29.3)	—	—	7.5YR5/3 に濃い赤褐	7.5YR5/3 に濃い赤褐	良好	十字	十字	5 多	1 微	—	—	—	内外面に黒 痕あり	568		
	202	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	8.4	—	5YR5/4 に濃い赤褐	7.5YR5/3 に濃い赤褐	良好	十字	十字	2 微	2 微	1 微	—	—	内外面に黒 痕あり	572		
	203	BⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 に濃い赤褐	10YR5/3 に濃い黄褐	良好	十字	十字	2 多	1 多	—	—	—	内面に僅か に黒痕あり	569		

## 第6節 C区の調査（第35図）

C区は調査地の北東部の調査区である。ピロティ構造の建物中で、唯一1階部分に設けられる部屋の位置にあたる。短軸10.8m、長軸30.0mの調査面積324㎡を測る長方形の調査区である。3調査区のうち、現地表面以下の整地用に施された盛土層（Ⅰa層）が最も厚く2.0～3.5m堆積している。Ⅰa層除去後調査区の東側約1/3を除いては、Ⅱa層に類似するものの色味はⅡa層に似るが、シルト質が強く水分を多く含んだⅡb層が全体に厚さ5～10cmほど堆積していた。Ⅱa層同様、縄文時代後晩期の遺物包含層と判断できるが、Ⅱa層との関係を解決することはできなかった。Ⅱb層の堆積は調査区西側に広く堆積していたものの遺物の平面分布には偏りが見られ、個体が解るほどの土器片が、調査区中央部の北側で集中して出土したことをのぞいては、他の地点では出土しなかった。

遺構は調査区の中央から西側で確認された。溝状遺構が3条、池状遺構が1基、谷状の落ち込みが1箇所確認された。

Ⅱb層除去後の地山は調査区全体でV層が露出していたが、調査区の東西両側から中央部に向かって下っていく状況が見てとれ、中央部が、浅く谷状に落ち窪んでいたことが伺える。特に調査区の東側では後世の切土造成により、地山層の欠失があるものの50cmほどの高低差があり、削平を受けていない本来の地形は谷部が顕著であったと思われる。今回検出された遺構はいずれもこの谷地形を利用して設けられたことを想起させるものであった。



第35図 C区検出遺構配置図（1/200）

## 1号溝状遺構、池状遺構（第36図）

略号は1号溝状遺構をSE1、池状遺構をSE1と付した。調査区の南端の中央部から西側で検出された。遺構は調査区外にも及んでおり全容は確認できない。池状遺構は北側で、後述する谷状の落ち込みを切っている。1号溝状遺構と池状遺構と分けて名称を付しているが、互いの底面の高さも明確な段を確認することはできず、埋土の堆積状況の観察でも先後関係を見ることはできなかったため、同時期の遺構と判断される。

1号溝状遺構は検出された部分の長さは約11.0m以上、幅1.9m以上、深さ85cm以上を測る。底面は接続する池状遺構から西に向かってわずかに下り勾配になる。埋土は粘質土が主体で最上層（①層）及び最下層（⑤層）ではマンガンを多く含んでおり、土壌が堆積する過程で、水生植物が茂っていたことを伺わせる。遺物は埋土中部（③層）から土師器片（209）や縄文土器片がわずかに出土している。池状遺構は検出された部分範囲では不定形で、最大幅6.0m、深さ約0.65m以上を測る。遺構内の埋土は自然堆積層であるが、全体に混濁したような状況が見られ、粘質土と砂質土が混ざり合う状況が各層で見られ、層の下部近くの④c層では鉄分の割合が非常に高く、さらに下層の④d層はグライ化も見られ、湧水があった可能性も示している。遺物は埋土下部（④層）で土師器片（208～212）が出土している。

205は1号溝状遺構出土の土器である。市来式土器の口縁部と考えられる。断面三角形に肥厚させ、屈曲部上半に連続刻目を施す。

## 2号溝状遺構（第35図）

略号はSE2と付した。1号溝状遺構の2mほど離れた場所で、1号溝状遺構にはほぼ平行するようにも走っている。遺構の西側は調査区外に及んでおり、東側は遺構が収束していた。検出された部分の長さ約8.5m以上、幅0.8mを測るが、深さは約8cmと浅い。埋土には暗褐色のシルト質と粘質土が混合したような土壌が堆積していた。埋土中から遺物は出土していない。

## 4号溝状遺構（第35図）

略号はSE4と付した。後述する遺構の北側は調査区外に及んでおり、南側は遺構が収束していた。後述する谷状の落ち込みを切っている。検出された部分の長さ約5.0m以上、幅0.5m、深さは約15cmを測る。溝の底面は北側から池状遺構に向かって下っていく状況が見られたが、途中で収束していることで、互いの遺構の関係性を確認することはできなかった。埋土には黒褐色のシルト質土が堆積していた。埋土中から須恵器杯身の破片（204）や、縄文土器片が出土している。

204は須恵器杯身である。小破片のため詳細は判らないが9～10世紀にかけての製作と考えられる。206、207は中岳Ⅱ式と考えられ、206が胴部から口縁部にかけて、207が胴部にかけての遺存で、同一個体の可能性が考えられる。206は口縁部に向け緩く反外し、端部には面を持つ。207は胴部中位にごく浅い2条の平行する凹線とM字形の凹文を施す。208～212は小型の鉢で、丸底もしくは尖底気味の底部を持つと思われ、体部は口縁部に向け内湾気味に立ち上がる。いわゆる布痕土器である。213は納屋向タイプと呼ばれる土器で胴部中位のやや高い位置に連続貝殻腹線文を施す。全体に作りが粗雑で口縁部は平縁であろうが、安定していない。214は宮之迫3式土器もしくは宮之迫4式土器である。口唇部に連続刻目を施し、ややしたに3条以上の凹線を施す。215は市来式土器である。口縁部を断面三角状に肥厚させ、上半に連続刻目

目を施す。

#### 3号土坑、4号土坑（第35図）

略号はそれぞれ、SC 3、SC 4と付した。2号溝状遺構の東側で取東する両側で、3号土坑が南側、4号土坑が北側で検出された。3号土坑は、平面形はほぼ円形で直径が0.8m、深さ80cmを測り、4号土坑は楕円形に近い形を呈し長軸0.7m、短軸0.5m、深さ80cmを測る。ともに底面はほぼ平坦になり、深さも同じである。同様に埋土には暗褐色のシルト質土が堆積しており、遺物は出土していない。埋土の状況、構築場所から2号溝状遺構に関連する施設の痕跡と考えられる。

#### 谷状の窪み（第38図）

略号はSZ 2と付した。調査区の中央を南北方向から西南方向に蛇行するような形状で検出された。北東側は調査区外に及び、南側は池状遺構に切られる。また一部を4号溝状遺構と攪乱坑によっても切られている。検出された部分の長さ約7.6m以上、幅3.8m底面までの深さは最深部で75cmを測るが、南側に向かうに従い浅くなり、池状遺構に切られる付近では深さ20cmになる。断面形はレンズ状に近いが、上端から底面の間でも数ヶ所の傾斜変換が見られ、その面の幅も0.4～2.0mと安定しない。埋土は自然堆積による埋没が観察でき、いずれも粘質土が堆積している。各層で鉄分、マンガンを含み、埋土中位の②a層から②d層では互層を形成し、砂質土がラミナ状に堆積する箇所も観察されたため、土壌が堆積する過程で水流があったことも伺える。また、埋土に特徴的に含まれるものとして、最上位に堆積する①a層と③a層では5～20mmの炭化物の粒子が3%程含まれている。存在当時、周辺部に集石遺構などの火処があったことも伺えるが、確は多数出土するものの、集石遺構を組成する焼石は1点も確認されなかった。

遺物は土器、及び石器が埋土最上層の①a層で多数出土したが、②a層から②d層では出土せず、底面近くの③a層では縄文土器の小破片が数点出土した。ただし、底面近く付近では、人頭大の砂岩の自然礫が15個集中して出土したが、人為的に配されたものであったかについては特定できなかった。

今回確認された「谷状の窪み」は調査区の中央で確認され、先述した調査区の勾配もこの「窪み」に向かって下る。また、この谷状の窪みの上部に堆積していた基本層序Ⅱ層も水平堆積ではなく、この「窪み」を最下部としてレンズ状に堆積し、谷状の窪みの埋土①a層と性質、色味は共に違えども、基本層序Ⅱb層からも大量の遺物が出土し、互いの層位で出土した土器が接合した状況も見られたため、C区で検出された基本層序Ⅱb層も谷状の遺構が埋没する過程の最終段階に堆積した土壌であると考えられる。

216～331は谷状の窪みの埋土内から出土した土器、及び土製品である。

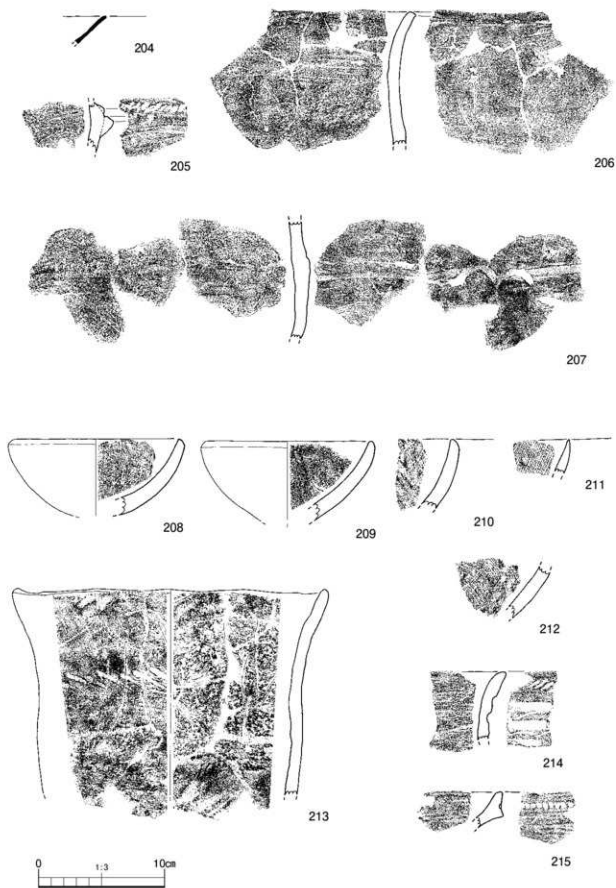
216は宮之迫4式土器である。平行する3本の沈線の上から連続刻目目を施す。

217～233は市来式土器の一群である。いずれも口縁部付近の資料である。217、218は口縁部を断面三角状に肥厚させ、端部は揃まむように内傾する。上半に凹線とその上に連続貝殻腹縁文、下に連続刻目を施す。219～244は口縁部が二重口縁状に内傾する。文様帯は屈曲部の上半に凹線、連続刻目、連続貝殻腹縁文を施すが、224は下半に浅い凹線を二重に施す。225、226は二重口縁状になる口縁部の屈曲部が突帯状に張る。225は屈曲の上半に連続刻目文、226は凹線を施す。227、228は口縁部が屈曲部を持たずに外反するが、外面に突帯状の肥厚部を有

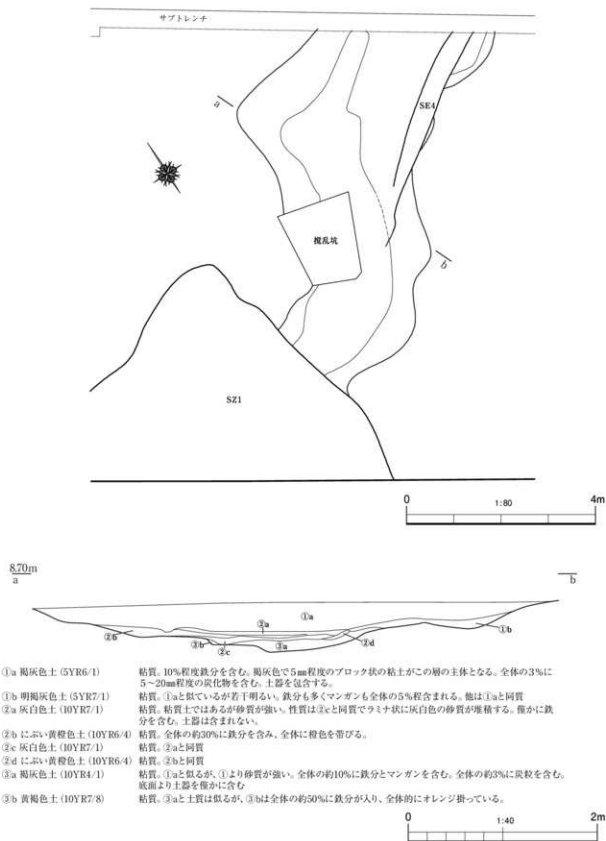


第36図 C区1号溝状遺構、池状遺構実測図 (平面図 S=1/100 土層図 1/40)

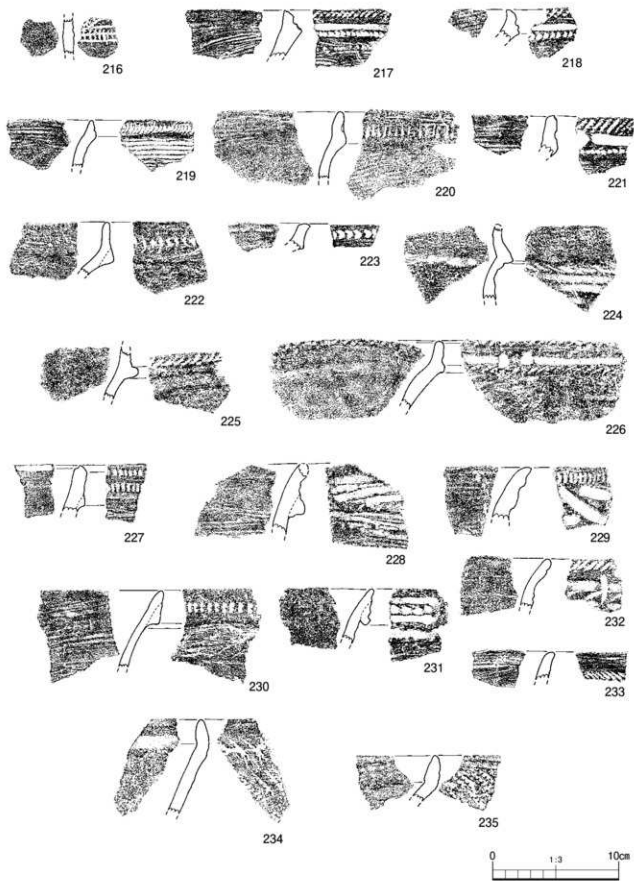




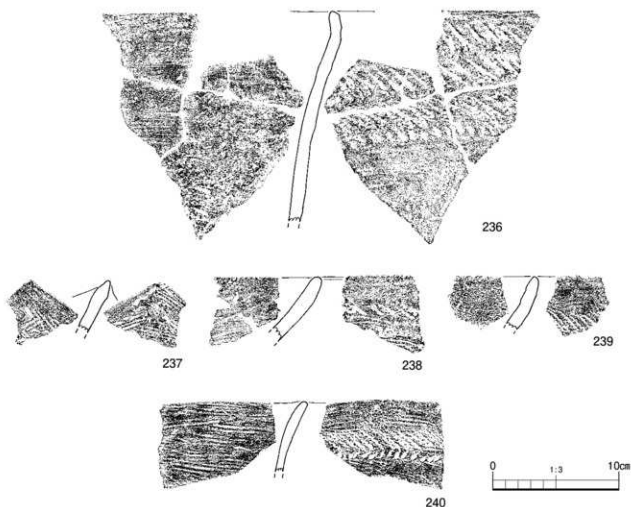
第37图 C区1号溝状遺構、池状遺構出土土器実測図(1/3)



第38図 C区谷状の窪み (平面図 S=1/80 土層図 1/40)



第39図 C区谷状の窪み出土土器実測図① (1/3)



第40図 C区谷状の窪み出土土器実測図② (1/3)

する。やはり肥厚部の上半に文様帯を持ち、227は2段の連続貝殻腹縁文、228凹線文を施す。230、231は口縁部に肥厚帯が見られるが、口縁部は直線的に外反し、外面の口縁部下に粘土帯を貼付けることで肥厚帯をつくる。

234～235は丸尾式土器の一群である237は波状口縁を呈し、それ以外は平縁口縁を呈する。234～236は口縁端部が屈曲して内傾する。236、237は文様帯下に屈曲部が見られないため、丸尾B式土器と考えられる。

241～252は丸尾式土器に後続する納屋向タイプの一群と思われる。文様帯が口縁部の上位に限られる丸尾式土器とは異なり、胴部中位以上に文様を施す。いずれも平縁口縁を呈するが、端部は安定せずうねる(241)。口縁部は外反しながら直線的に開くもの(241、242)、直線的に開くもの(243、244、251、252)、胴部から口縁部にかけて緩く屈曲して開くもの(245)がある。胴部は丸尾式土器に比べ、僅かに丸味を帯び張る(245、250、252)。文様帯は、連続貝殻腹縁文を口唇部近くに施すもの(243、246、247、249)、胴部と口縁部の境に施すもの(245、250、251、252)がある。施文は連続貝殻腹縁文を基本とするが、斜め方向に一定して施すだけでなく、山形に施文するものも見られる(241、245)

253～273は納曾式土器の一群である。プロローションは2種類に大別され、丸味を帯びた胴部から屈曲を持って口縁部が外反するものタイプ(253、254)、胴部から口縁部に向け直線的に開くタイプ(262)がある。口縁部は波状口縁のもの(253、255、257、259)、平縁口縁のもの(254、256、258)があるが、端部の断面形態でさらにバリエーションが見られ、端部が屈曲して内傾するもの(253、256、257)、直線的に開くもの(254、259、262～267)、三角状に僅かに肥厚するもの(255、260、261)、外反りするもの(258、268)がある。文様帯は胴部中位付近と口縁部付近に二重以上の直線状の沈線文を施すものが多いが、沈線は平行を基調にはしているが粗雑である。253は沈線文帯の上位に、260、261は口縁端部に連点文を施す。また269は沈線文の上からV字状の凹点を施す。なお、262の器形は納曾式土器とされる群とは異なるもの、文様の特徴から今回は納曾式に含めた。

274～278は中岳Ⅱ式土器である。全体的な特徴として胴部の最大径を最上位に持ち、緩く屈曲し、口縁部は外反り気味に開く(274、275、278)。口縁端部を肥厚させるもの(274、275、277～280、281、283、284)、肥厚しないもの(276、285、286)、端部がSの字状になるもの(287)がある。282は波状口縁を呈し、他は平縁口縁を呈する。文様は器壁外面をナデ調整したのちに胴部の最大径部分、もしくはそのやや上部分と口縁端部の2部位のみに、二重のごく浅い凹線もしくは沈線を施す。またその凹線、沈線の上から三日月形の凹点を施すもの(274～277、286)もみられる。

288、289はいわゆる黒色磨磨土器とされる浅鉢の群である。いずれも口縁部が著しくカーブを描いて外反し、口縁端部はつまむように僅かに立つ。288は器壁表面の風化がいちじるしいものの、289は内外面に丁寧磨きが残る。289は上加世田式土器に類すると思われる。

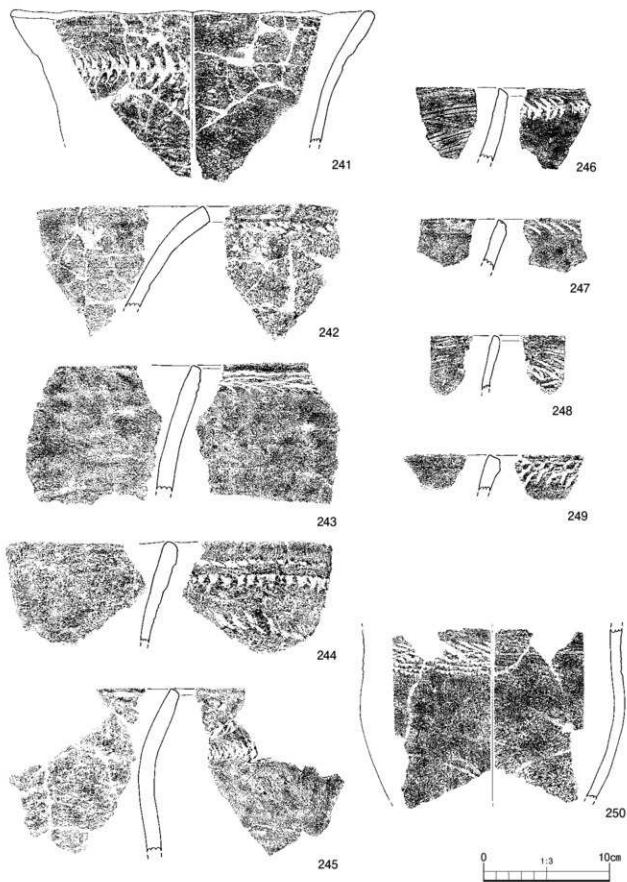
290～311は形式が不明の土器である。

290～309は文様帯がないナデ仕上げの一群である。器壁が灰色味がかっており、器壁は分厚い。胴部最大径を上部に持ち、胴部がくの字に屈曲するもの(295～297、300、308)が多く、口縁部は外反りしながら開くが、303は内湾する。口縁端部は断面三角状に肥厚するもの(290～292)、端部が外傾する面をもつもの(293～296、300、302)、口縁端部が丸味を帯びるもの(297～299)がある。

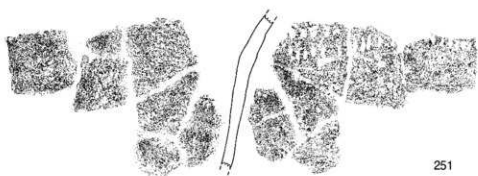
310、312は口縁部に沈線の文様帯を持つ群である。市来式土器、納曾式土器、中岳Ⅱ式土器でも口縁部上位に文様帯を持つタイプがあるが、310、311の口縁部は肥厚せず、全体に器壁が薄い。310は二重口縁状の口縁部を持ち、胴部からカーブを描き開く。

312～326は底部資料である。312～324は深鉢の底部である。平底を呈するもの(312～318)、僅かに上げ底を呈するもの(319～321)、上げ底を呈するもの(322)、平底を呈するが、接地面が小さく、底面が厚くなるもの(323、324)に大別される。それぞれ組織痕等は確認できない。325は台付皿形土器の底部で器壁が厚くナデ仕上げである。326も底部資料であるが、接地面の径が著しく狭く、前者の325とは異なる器種が考えられる。

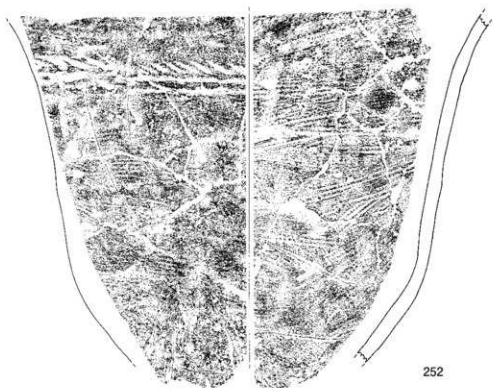
327～331は土鍾である。何れも長さ5cmほどの楕円形を呈する。両端に挟りを施し、328、331は中央を浅く溝状の窪みもみられる。土器片からの転用品と考えられる。



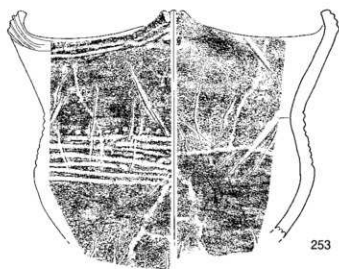
第41図 C区谷状の窪み出土土器実測図③ (1/3)



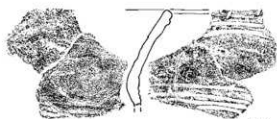
251



252



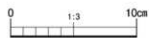
253



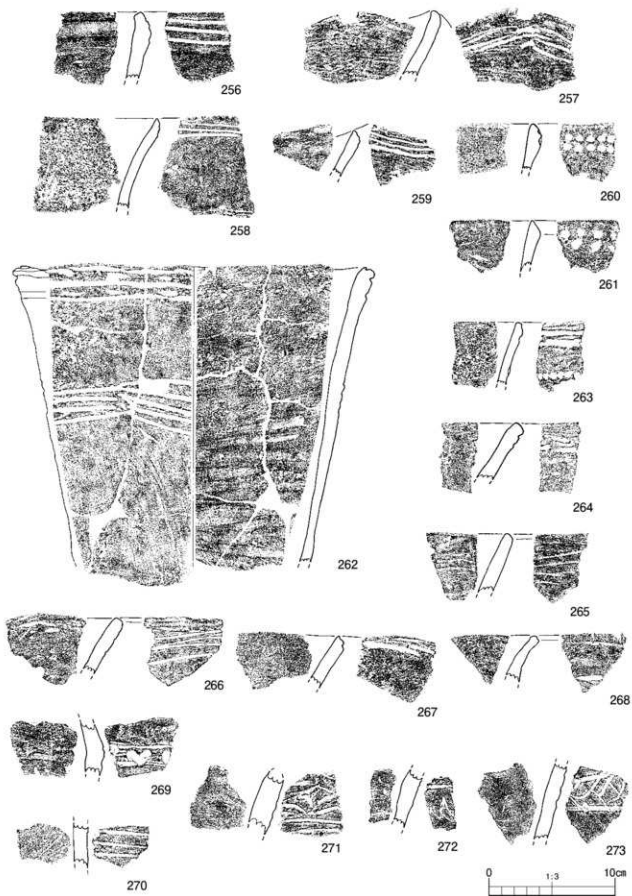
254



255

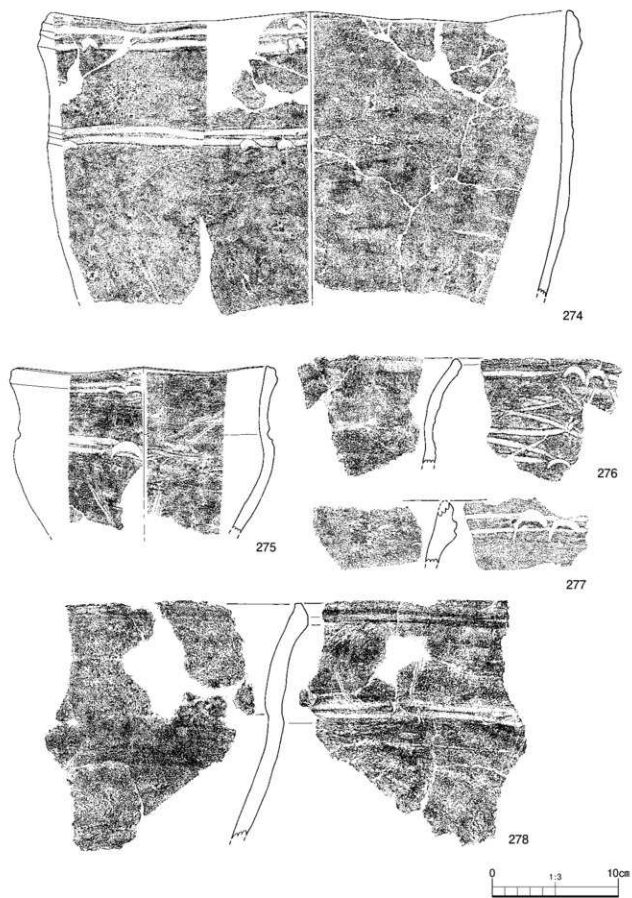


第42図 C区谷状の窪み出土土器実測図④ (1/3)

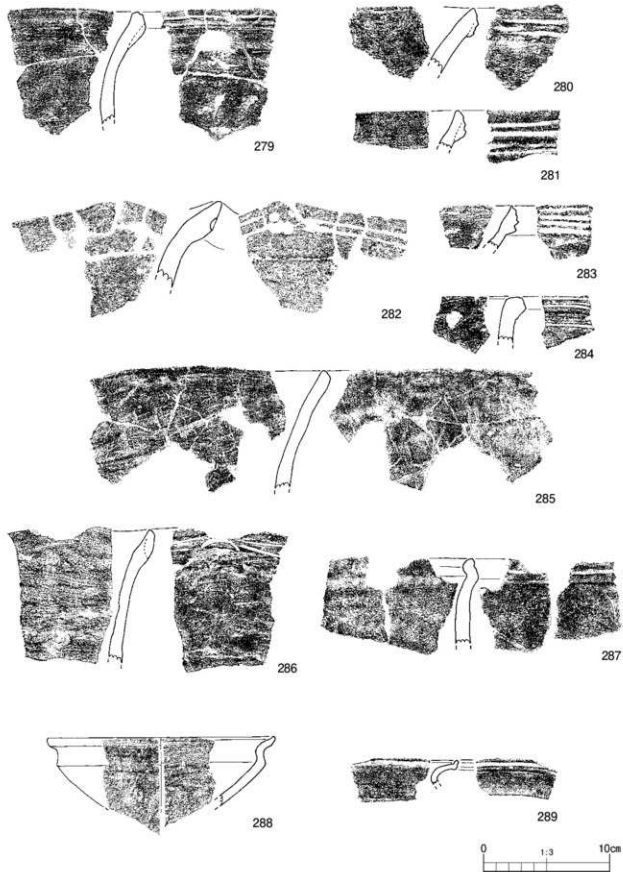


第43図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑤ (1/3)

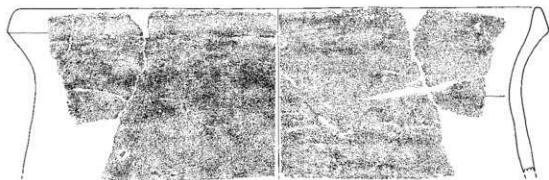




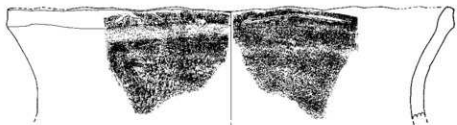
第44図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑥ (1/3)



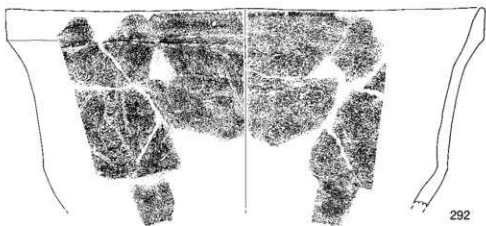
第45図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑦ (1/3)



290



291



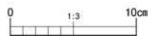
292



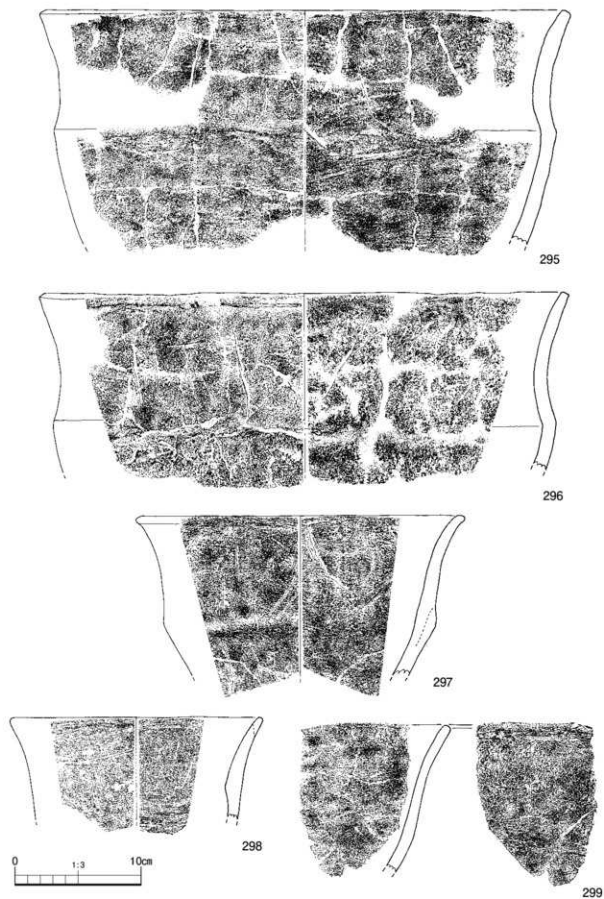
293



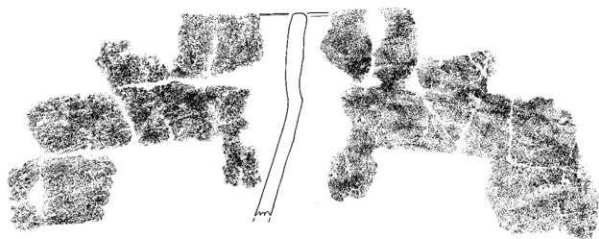
294



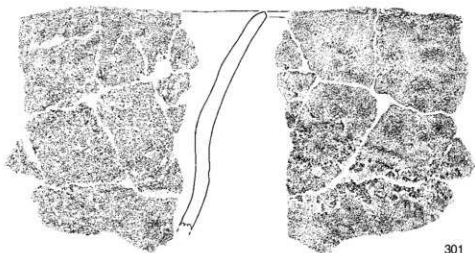
第46図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑧ (1/3)



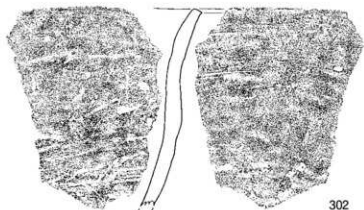
第47図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑨(1/3)



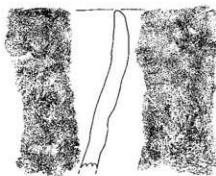
300



301



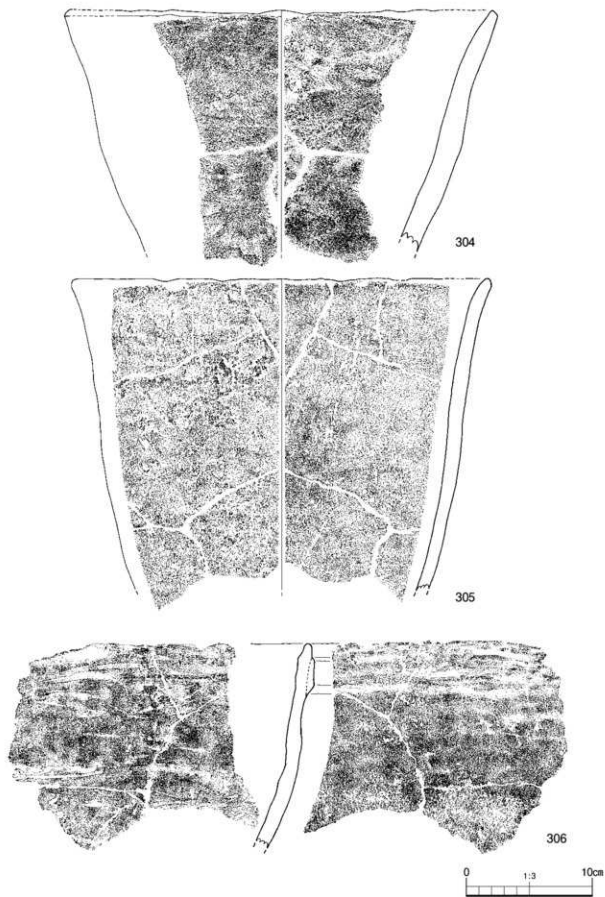
302



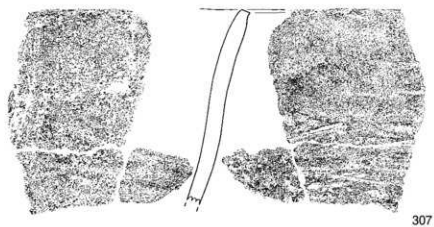
303



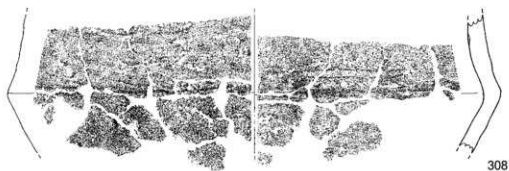
第48図 C区谷状の窪み出土土器実測図<sup>10</sup> (1/3)



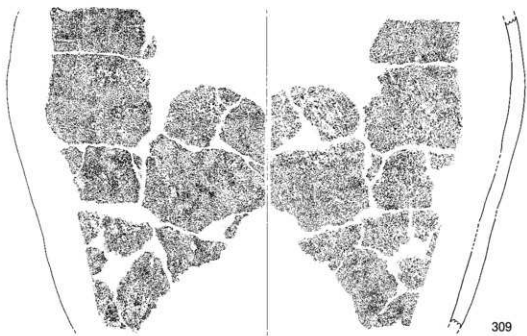
第49図 C区谷状の窪み出土土器実測図① (1/3)



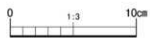
307



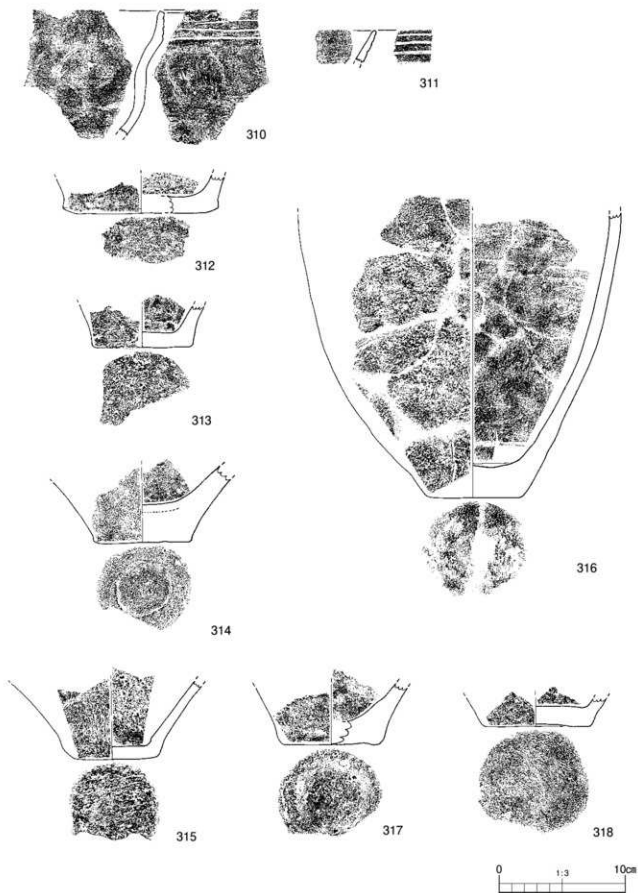
308



309

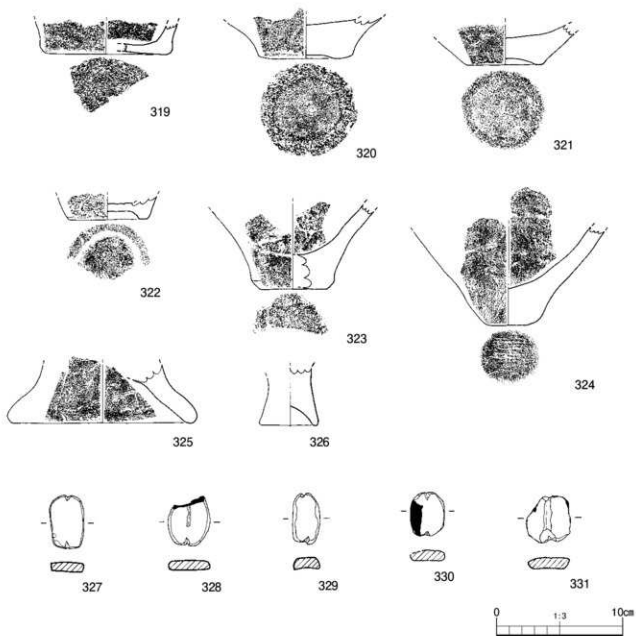


第50図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑫ (1/3)



第51図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑬ (1/3)





第52図 C区谷状の窪み出土土器実測図⑬ (1/3)

第10表 C区出土土器観察表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種類	法量(m) ( ) : 次元				色 調		焼成	調整 文様		胎土(上・下)量					備考	実測 番号	
				器種	口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	外面	内面	A	B	C			D
P50 第37図	204	SE 4	須恵器 環	—	—	—	5Y5/4 オリーブ	2.5Y3/4 灰	良好	回転ナデ	回転ナデ						須恵器	465		
	205	SE 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/1 赤灰	5YR4/2 灰	良好	ナデ、刺突文、胎付 突帯	ナデ	2	1	多	多		市東 胎付 突帯あり	462		
			深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 灰	5YR4/1 灰	良好	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	1	1	少	少		中邑Ⅱ 内 外面に黒灰あり	461		
	207	SE 4	縄文土器 深鉢	—	—	—	N4/0 灰	10YR4/1 灰	良好	糸痕の後ナデ、四隅 文、三日月形の四隅 文	糸痕の後工具に よるナデ	2	1	多	少		中邑Ⅱ 内 外面に黒灰あり	463		
	208	CSZ 1Ⅳ	土師 鉢	(13)	—	—	2.5Y6/2 灰黄	10YR6-2 灰黄	良	ナデ	布痕				1	多	布痕	470		
	209	SE 1	土師 鉢	(13)	—	—	5YR7/4 にぶい	2.5YR6-6 褐色	良	ナデ	ナデ	1			少		布痕 接50	469		
	210	CSZ 1Ⅱ	土師 布痕	—	—	—	7.5YR6/4 にぶい	7.5YR5/4 にぶい	良好	ナデ	布痕						布痕	468		
	211	SZ 1	土師 布痕	—	—	—	2.5Y6/1 黄灰	10YR5-2 灰黄	良	ナデ	布痕				1	多	布痕	467		
	212	SZ 1	土師 鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄	10YR6-2 灰黄	良好	ナデ	布痕				1	多	布痕	471		
	213	SZ 1	縄文土器 深鉢	(24.3)	—	—	7.5YR5-3 にぶい	7.5YR6-3 にぶい	良好	指ササヒ、刺突文、 ナデ	ナデ	4	1	多	多		網短向	472		
	214	SZ 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4-3 灰	3YR5-3 にぶい赤	良好	ナデ、刺突文、四隅 文	糸痕の後ナデ	2	1	少	少		市東	464		
	215	SZ 1	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-3 にぶい	7.5YR5/4 にぶい	良好	糸痕、目録刺突文	糸痕後ナデ	1	1	2	少		市東 外面 に黒灰あり	466		
	P52 第39図	216	CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6-3 にぶい	10YR4-1 灰	良	ナデ、目録刺突文、 刺突文	ナデ	2			少		岩崎土師	558	
		217	CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5-2 灰	5YR5-4 にぶい赤	良好	キザヒ、四隅文、糸 痕後ナデ、刺突文	糸痕後ナデ	1			多		市東 内面 面に黒灰あり	542	
				深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰	7.5YR5-2 灰	良好	ナデ	糸痕後ナデ						市東	547	
		219	CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰	3YR3-1 赤黄灰	良好	糸痕	刺突文、四隅文	1			少		市東	532	
		220	CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰	5YR5-4 にぶい赤	良好	目録刺突文、糸痕後 ナデ	糸痕後ナデ	1			多	2		市東 外面 に突帯あり	455
		221	CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5-4 にぶい赤	5YR5-4 にぶい赤	良好	目録刺突文、四隅文、 刺突文、ナデ	糸痕	1			少		市東	545	
		222	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰	5YR4-2 灰	良好	胎付突帯、糸痕後ナ デ、目録刺突文、ナ デ	糸痕後ナデ	微	1		少	微		市東	511
223		CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰	7.5YR5-2 灰	良好	竹管文、ナデ	ナデ	2			少		市東	548		
224		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/3 にぶい赤	7.5YR5-4 にぶい赤	良好	目録刺突文、四隅文、 糸痕後ナデ	ナデ、指ササヒ	2			少		市東	453		
225		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5-4 にぶい赤	7.5YR5/4 にぶい赤	良好	刺突文、黒灰	ナデ	1			少		市東	518		
226		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4-3 にぶい赤	7.5YR6-4 にぶい赤	不良	糸痕の後ナデ、四隅 文、胎付突帯(目録 刺突文)、ナデ	ナデ	6	1	多	多		市東 外面 に黒灰あり 目録面にキザヒ	506		
227		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤	5YR5-4 にぶい赤	良好	ナデ、押引き	糸痕の後ナデ	2	1	多	多		市東 突帯 あり	475		
228		CⅡ 崩	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/2 灰	5YR5-4 にぶい赤	良好	糸痕の後ナデ、四隅 文、突帯に刺突文	糸痕の後ナデ	3			少		市東	536		
229		SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR6-4 にぶい赤	良好	刺突文、四隅文	ナデ	1	1	多	多		市東	513		

第11表 C区出土土器観察表②

発掘調査 図番号	番号	遺構等	種類	法量 (m) ( ) : 復元				色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上 : 下 : 量)					備考	実測 番号
				器種	口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E		
P52 第39回	230	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/3 に灰い赤褐色	3YR5/4 に灰い赤褐色	良好	目取押引キ、胎付突筋、表裏後ナデ	表裏後ナデ	微 量					市来	457	
	231	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/4 に灰い黄褐色	75YR6/4 に灰い赤褐色	良好	ナデ、凹線文、押引キ文、刺突文 (工具による)	ナデ	2 少	1 少	1 少			市来 刺突 文あり	456	
	232	埋瓦坑	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 に灰い赤褐色	25YR5/4 に灰い赤褐色	良	ナデ、工具による刺突文、凹線文、貝殻刺突文	ナデ	3 多	2 多	2 多			市来	512	
	233	C II 厨	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR4/1 灰褐色	75YR4/2 灰褐色	良好	表裏後ナデ、貝殻刺突文	表裏後ナデ	1 少	1 少				市来	529	
	234	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/4 に灰い赤褐色	5YR6/4 に灰い赤褐色	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	3 多	1 多	1 多			丸尾A	521	
235	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/4 に灰い赤褐色	75YR6/4 に灰い赤褐色	良好	表裏後ナデ、貝殻刺突文	表裏後ナデ、ナデ	3 少	2 少				丸尾A	493		
236	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/4 に灰い赤褐色	5YR6/4 に灰い赤褐色	良好	ナデ、表裏後ナデ、貝殻刺突文	表裏後ナデ	2 少	2 少				丸尾A	496		
237	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/6 褐色	5YR5/4 に灰い赤褐色	良好	表裏後ナデ、表裏	表裏の後ナデ、表裏	4 少	2 少	1 少			丸尾B	501		
238	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 に灰い赤褐色	75YR5/3 に灰い赤褐色	良好	表裏の後ナデ、貝殻刺突文	表裏の後ナデ	2 少	2 少				丸尾B	473		
239	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 に灰い赤褐色	75YR6/4 に灰い赤褐色	良好	表裏の後ナデ、貝殻刺突文	ナデ	1 少	1 少				丸尾B 口 唇部にキザ ミ	507		
240	C II 厨	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 に灰い赤褐色	3YR5/3 に灰い赤褐色	良好	ナデ、表裏、刺突文、表裏の後ナデ	表裏	5 多	1 多	1 多			市来	534		
241	SZ 2	縄文土器 深鉢	(272)	—	—	25YR5/3 に灰い赤褐色	5YR5/4 に灰い赤褐色	良好	ナデ、工具による刺突文	ナデ	3 少	1 少				焼削向 胎筋あり	452		
242	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR6/4 に灰い赤褐色	3YR6/4 に灰い赤褐色	良好	ナデ、刺突文	ナデ	6 多	2 多				焼削向	520		
243	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/4 に灰い赤褐色	75YR5/3 に灰い赤褐色	良好	凹線文、刺突文、ナデ	ナデ	5 多	1 多				焼削向	503		
244	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/4 に灰い赤褐色	75YR6/4 に灰い赤褐色	刺突文	ナデ	1 少	1 少					焼削向	516		
245	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR4/2 灰褐色	3YR5/4 に灰い赤褐色	良好	ナデ、刺突文	ナデ	4 多	1 多				焼削向 内 外面に黒炭あ り	495		
246	C II 厨	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/3 に灰い赤褐色	75YR5/3 に灰い赤褐色	良好	ナデ、刺突文	表裏後ナデ	2 多	2 多				焼削向	543		
247	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/3 に灰い赤褐色	5YR6/4 に灰い赤褐色	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	2 少	2 少				焼削向	505		
248	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/3 に灰い赤褐色	25YR4/2 灰褐色	良好	表裏後ナデ	表裏後ナデ、凹 線文、ナデ	1 少					焼削向 内 外面にスス 付着	514		
249	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 に灰い黄褐色	75YR6/3 に灰い赤褐色	良好	凹線文、キザミ、刺突文、ナデ	ナデ	1 少	2 少	1 少			焼削向 口 唇部にキザ ミ	519		
250	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR4/1 に灰い赤褐色	3YR5/4 に灰い赤褐色	良	ナデ、貝殻刺突文	表裏の後ナデ	6 少	2 少				焼削向 内 外面に黒炭あ り	504		
251	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 に灰い赤褐色	5YR5/4 に灰い赤褐色	良好	貝殻刺突文、ナデ	ナデ	4 少	1 多	1 多			焼削向	459		
252	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	75YR5/4 に灰い赤褐色	75YR5/4 に灰い赤褐色	良好	ナデ、胎ナデ、貝殻刺突文	表裏の後ナデ、 胎ナデ	4 少	2 少				焼削向 内 外面に黒炭あ り	508		
253	SZ 2	縄文土器 深鉢	(242)	—	—	5YR5/4 に灰い赤褐色	75YR5/4 に灰い赤褐色	ナデ	ナデ、凹線文、刺突文	ナデ	1 多	1 多				焼削	454		
254	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/2 灰黄褐色	5YR5/3 に灰い赤褐色	良好	ナデ、凹線文	ナデ、表裏	2 多	1 多				焼削 内外 面に黒炭あ り	517		
255	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/3 に灰い赤褐色	5YR4/1 灰褐色	良好	ミガキ、凹線文	ミガキ	1 少	1 少				焼削	522		

第12表 C区出土土器観察表③

発掘区 図番号	番号	遺構等	種類	法量(m)			色		調	調整		出土(上:下:量)					備考	実測 番号		
				口徑	底徑	器高	外面	内面		外面	内面	A	B	C	D	E				
				単位	単位	単位	単位	単位		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位			単位	
P57 第430区	256	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR5/2 灰褐色	—	—	—	—	1 少					納骨	335	
	257	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐色	7.5YR4/1 灰褐色	良好	ナデ、凹線文	ナデ	—	3 少	1 少				納骨 内面 面に黒炭あり	337	
	258	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/2 灰赤	5YR3/3 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文	—	—	2 少	1 少				納骨 内面 面に黒炭あり	458	
	259	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 灰褐色	7.5YR4/1 灰褐色	良好	糸痕の後ナデ、ナデ、 凹線文	ナデ	—	2 僅	1 少				納骨 内面 面に黒炭あり	540	
	260	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	良好	ナデ、2列の列点文	ナデ	—	1 微					納骨	478	
	261	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	2.5YR6/6 橙褐色	良好	ナデ、刺突文	ナデ	—	2 微	1 多				納骨	479	
	262	SZ2	縄文土器 深鉢	(26.8)	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	ナデ、ミガキ、凹線 文、刺突文	ナデ	—	5 多	1 少				納骨 外面 面に炭化物あり	449	
	263	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR3/3 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文、刺突 文	ナデ	—	2 少	1 少				納骨	480	
	264	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	10R5/2 灰赤	良好	ナデ、短い凹線文?	ナデ	—	2 少					納骨	481	
	265	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/6 橙褐色	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文	糸痕の後ナデ	—	2 多	1 多				納骨	483	
	266	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文	ナデ	—	2 微					納骨	484	
	267	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR6/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/4 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文?	ナデ	—	4 多	2 少				納骨 口唇 面にナデ?	509	
	268	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR5/2 灰褐色	良	ナデ、凹線文	ナデ	—	3 微	2 微				納骨 内面 面に黒炭あり	515	
	269	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR3/1 灰褐色	良好	ナデ、凹線文、ハ ト型の凹線文	ナデ	—	1 多	2 多				納骨	557	
	270	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文	糸痕	—	2 少	2 少				納骨	556	
	271	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	ナデ、凹線文	ナデ	—	4 多					納骨	551	
	272	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR6/4 にぶい赤褐色	良好	刺突文、凹線文、筋 筋	ナデ	—	1 微					納骨	554	
	273	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	7.5YR5/2 灰褐色	良好	ナデ、凹線文、縦筋	ナデ	—	2 微	1 僅				納骨 内面 面に黒炭あり	553	
	P58 第440区	274	SZ2	縄文土器 深鉢	(21)	—	—	5YR4/3 にぶい赤褐色	7.5YR4/2 灰褐色	良好	ナデ、線状刺突文、 凹線文、指ナデ	ナデ	—	3 微	2 多				中倉Ⅱ 外面 に炭化物あり 内面に黒 炭あり	431
		275	CⅡ層	縄文土器 深鉢	(19.6)	—	—	5YR5/2 灰褐色	10YR4/1 灰褐色	良好	ナデ、三日月型凹線 文、凹線文	ミガキナ	—	1 微					中倉Ⅱ 外 面に黒炭あり	555
276		埋没坑	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/3 にぶい赤褐色	7.5YR4/1 灰褐色	良	ナデ、凹線文、三日 月状凹線文左右	ナデ	—	3 少	2 多				中倉Ⅱ 外 面にスス付 着	510	
277		CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/2 灰褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	糸痕後ナデ、凹線文	ナデ	—	2 微					中倉Ⅱ	550	
278	SZ2	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 にぶい赤褐色	7.5YR5/2 灰褐色	良好	ナデ、凹線文	ナデ	—	3 多	1 多				中倉Ⅱ	446		
P59 第450区	279	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 灰褐色	10YR5/2 灰黄褐色	良好	糸痕、ナデ	糸痕、ナデ	—	6 2					中倉Ⅱ	562	
	280	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐色	10YR3/1 灰褐色	良好	糸痕後ナデ、凹線文、 貼付突帯	糸痕後ナデ	—	1 微					中倉Ⅱ 外 面に炭化物 あり	524	
	281	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR4/1 灰褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	良好	糸痕後ナデ、凹線文、 貼付突帯	糸痕後ナデ	—						中倉Ⅱ 外 面にスス付 着	531	

第13表 C区出土土器観察表④

発掘調査 区番号	番号	遺構等	種類	流量 (ml) ( ) : 還元			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上 : 下 : 量)					備考	実測 番号
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D		
P59 第45区	282	SZ 2	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR3/2 灰褐色	2.5YR4/2 灰赤	良好	野史文 (穂状の道具 による)、ナデ	ナデ	2	1				中倉Ⅱ 内 面に黒炭あり	444
	283	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 灰灰	7.5YR4/1 灰灰	良好	四編文、ナデ	ナデ、指ナデ	3	1				中倉Ⅱ	527
	284	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	2.5YR4/1 赤灰	7.5YR4/1 灰	良好	ミギキ、四編文、ナ デ	ナデ	2	1	1			中倉Ⅱ	530
	285	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR5/4 1.5-3.5の赤	7.5YR5/3 1.5-3.5の赤	良好	ナデ	赤線	3	1				中倉Ⅱ 外 面に黒炭あり 裾55	549
	286	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/2 灰灰	10YR4/1 灰灰	良好	赤線後ナデ、四編文	赤線後ナデ	2	1				中倉Ⅱ 内面 に黒炭あり 3日付吹付 編文あり	525
	287	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	良好	ナデ、四編文	ナデ	3	1				中倉Ⅱ	546
	288	CⅡ層	縄文土器 浅鉢 (17.7)	—	—	—	10R4/1 期赤灰	10YR4/1 期灰	良好	ナデ、ミギキ	ナデ、ミギキ	1	1				黒色研研機	430
	289	CⅡ層	縄文土器 浅鉢	—	—	—	5YR4/1 期灰	10YR6/2 灰黄褐色	良好	ナデ、四編文	ナデ	1	1				上加田	538
	P60 第46区	290	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (40.6)	—	—	—	7.5YR4/1 期灰	7.5YR5/2 期灰	良好	ナデ	ナデ	1	1				無刷目交帯 文 裾56
291		CⅡ層	縄文土器 深鉢 (34.2)	—	—	—	10YR6/3 1.5-3.5の赤	7.5YR6/3 1.5-3.5の赤	良好	ナデ	ナデ	2	2				無刷目交帯 文 内面に 黒炭あり	523
292		CⅡ層	縄文土器 深鉢 (37.6)	—	—	—	7.5YR6/3 1.5-3.5の赤	10YR6/2 灰黄褐色	良	ナデ、指ナデ	ナデ、指ナデ	2	1				無刷目交帯 文 内面に 黒炭あり	544
293		CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 期灰	7.5YR5/2 期灰	良好	ナデ	ナデ	2	1				無刷目交帯 文 内面に 黒炭あり	432
294		CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 期灰	10YR5/1 期灰	良好	ナデ	赤線の後ナデ	4	1				無文	438
P61 第47区	295	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (41)	—	—	—	5YR5/2 期灰	5YR5/2 期灰	良好	ナデ	ナデ	2	1				無文 外面 にスズ付着 性面に灰化 物あり	450
	296	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (40.8)	—	—	—	7.5YR4/2 期灰	10YR6/2 灰黄褐色	良好	ナデ	ナデ	4	2				無文 外面 に灰化物あり	445
	297	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (24.9)	—	—	—	10YR5/2 灰黄褐色	5YR5/1 期灰	良	ナデ	ナデ	3	1				無文 内外面 に黒炭あり	352
	298	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (19.6)	—	—	—	7.5YR5/2 期灰	7.5YR5/3 1.5-3.5の赤	良好	ナデ	ナデ	3	1				無文 内外面 に黒炭あり 外面にスズ付 着	564
	299	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR4/1 期灰	10YR4/1 期灰	良	ナデ	ナデ	6	2				無文 外面 に灰化物あり	560
P62 第48区	300	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐色	7.5YR6/2 期灰	良好	赤線後ナデ	赤線後ナデ	1	1				無文 外面 にスズ付着 性面に灰化 物あり	447
	301	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR4/1 期灰	5YR4/1 期灰	良好	ナデ	ナデ	3	1				無文 外面 に灰化物あり	429
	302	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR5/1 期灰	7.5YR5/2 期灰	良好	赤線の後ナデ	赤線の後ナデ	3	1				無文 外面 に黒炭あり	433
	303	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	7.5YR6/4 1.5-3.5の赤	10YR6/2 灰黄褐色	良	ナデ	ナデ	1	1				無文	541
P63 第49区	304	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (33.3)	—	—	—	7.5YR5/2 期灰	5YR7/1 期灰	良好	ナデ	ナデ	2	1				無文	442
	305	CⅡ層	縄文土器 深鉢 (32.6)	—	—	—	10YR6/3 1.5-3.5の赤	10YR7/1 期灰	良	ナデ	ナデ	3	1				無文 外面 に灰化物付 着 内面に 黒炭あり	440
	306	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	5YR7/1 期灰	7.5YR4/2 期灰	良好	ナデ	ナデ	2	1				無文 外面 に灰化物付 着	448
P64 第50区	307	CⅡ層	縄文土器 深鉢	—	—	—	10YR5/1 期灰	10YR5/1 期灰	良	ナデ	ナデ	6	1	2			無文 外面 に黒炭あり	434

第14表 C区出土土器観察表⑤

発掘区画番号	番号	遺構等	種類	法量 (m) ( ) : 復元			色 調		焼成	調整 文様		胎土 (上・下:量)					備考	実測番号	
				器種	口径	底径	器高	外面		内面	外面	内面	A	B	C	D			E
P64 第50区	308	CⅡ層	縄文土器				10YR5/1 黒灰	10YR4/1 黒灰	良好	ナテ	ナテ	5	1	1		無文	439		
			深鉢	—	—	—							多	多	多				
	309	CⅡ層	縄文土器				7.5YR6/2 灰黒	10YR5/1 黒灰	良好	ナテ	ナテ	3	1	1		無文・内面に黒灰あり	435		
深鉢	—	—	—			多	多	僅											
P65 第51区	310	CⅡ層	縄文土器				10YR5/1 黒灰	10YR4/1 黒灰	—	西綴文・ナテ	ナテ	2	微	微			528		
	深鉢	—	—	—			多	多				僅							
	311	CⅡ層	縄文土器				7.5YR3/1 黒黒	5YR4/1 黒灰	良好	ナテ、凹線文	ナテ		微				526		
			深鉢	—	—	—						多							
	312	CⅡ層	縄文土器		(10)	—	7.5YR5/4 12.5Y4/黒	7.5YR5/2 灰黒	良好	ナテ、歯ナテ	ナテ	2	1			底部	428		
			深鉢	—	—	—						多	僅						
	313	CⅡ層	縄文土器		(7.4)	—	7.5YR5/3 12.5Y4/黒	7.5YR5/2 灰黒	良好	ナテ	ナテ	1	微			底部	566		
			深鉢	—	—	—						少	僅						
	314	C14	縄文土器		(7.6)	—	10YR7/3 12.5Y4/黄黒	2.5Y6/1 黄灰	良好	ナテ	ナテ	2	1	1		底部 底部に凹線の残	423		
			深鉢	—	—	—						少	少	僅					
315	SZ.2	縄文土器		(6.55)	—	5YR5/4 12.5Y4/赤黒	7.5YR5/4 12.5Y4/黒	良	ナテ	ナテ	7	2	2		底部 内面に黒灰あり	494			
		深鉢	—	—	—						多	多	多						
316	CⅡ層	縄文土器		(7.2)	—	10YR6/3 12.5Y4/黄黒	7.5YR5/2 灰黒	良好	ナテ	ナテ	4	1	1		底部 横溝	426			
		深鉢	—	—	—						少	多	僅						
317	CⅡ層	縄文土器		(7.4)	—	10YR6/3 12.5Y4/黄黒	10YR5/1 黒灰	良好	ナテ	ナテ	5	2	1		底部	563			
		深鉢	—	—	—						多	多	僅						
318	SZ.2	縄文土器		8.1	—	7.5YR6/4 12.5Y4/橙	7.5YR6/4 12.5Y4/橙	良	ナテ	ナテ	7	微	1		底部	497			
		深鉢	—	—	—						少	僅	僅						
319	SZ.2	縄文土器		(9.4)	—	7.5YR5/3 12.5Y4/黒	5YR5/4 12.5Y4/赤黒	良	ナテ、歯ナテ	ナテ	2	微	1		底部 外面に黒灰あり	499			
		深鉢	—	—	—						少	僅	僅						
320	CⅡ層	縄文土器		7.4	—	7.5YR6/3 12.5Y4/黒	10YR6/2 灰黄黒	良好	ナテ	ナテ	2	1	1		底部	561			
		深鉢	—	—	—						少	少	少						
321	CⅡ層	縄文土器		5.95	—	10YR6/2 灰黄黒	10YR5/1 黒灰	不良	ナテ	ナテ	5	3	2		底部	567			
		深鉢	—	—	—						多	多	僅						
322	SZ.2	縄文土器		(6)	—	7.5YR7/3 12.5Y4/橙	10YR5/2 灰黄黒	良	ナテ	工具によるナテ	1	微			底部	425			
		深鉢	—	—	—						少	多							
323	CⅡ層	縄文土器		(5.1)	—	7.5YR6/3 12.5Y4/黒	7.5YR3/1 黒黒	良好	ナテ	ナテ	2	1	1		底部 内面に灰化物あり	565			
		深鉢	—	—	—						多	僅	僅						
324	SZ.2	縄文土器		4	—	7.5YR5/3 12.5Y4/黒	10R4/2 黒赤灰	良好	ナテ	ナテ	2	1			底部 ケズリ痕?	424			
		深鉢	—	—	—						少	少							
325	SZ.2	縄文土器		(14.2)	—	7.5YR5/4 12.5Y4/黒	5YR6/4 12.5Y4/橙	良好	ナテ	ナテ	2	1			内面に黒灰あり	500			
		台付鉢or皿	—	—	—						少	少							
326	CⅡ層	縄文土器		(4.4)	—	無色 灰	—	良好	ナテ			3	1			576			
		台付鉢or皿	—	—	—						多	多							
327	CⅡ層	土器		—	—	10YR6/2 灰黄黒	10YR5/2 灰黄黒	良好	ナテ	ナテ	2	1	1		内面に黒灰あり	580			
		土鉢	—	—	—						少	少	少						
328	CⅡ層	土器		—	—	10YR6/2 灰黄黒	10YR7/2 12.5Y4/黄橙	—	ナテ、工具痕	ナテ	2	1				581			
		土鉢	—	—	—						多	少							
329	CⅡ層	土器		—	—	7.5YR5/3 12.5Y4/黒	7.5YR4/2 灰黒	—	ナテ	ナテ	2	3	1			582			
		土鉢	—	—	—						少	少	僅						
330	CⅡ層	土器		—	—	10YR5/3 12.5Y4/黄黒	2.5Y5/1 黄灰	良	ナテ	ナテ	微	微				583			
		土鉢	—	—	—						少	少							
331	SZ.2	土器		—	—	2.5YR5/6 黄赤黒	2.5YR5/6 黄赤黒	不良	ナテ、工具痕	ナテ	2	微				584			
		土鉢	—	—	—						少	少							

## 第7節 出土石器（第53～58図）

332～338は打製石鏃である。平面形態が正三角形を呈する333、335、二等辺三角形を呈する332、334、336、338がある。

339は石匙である。縦型の石匙で丸味を帯びた刃部を持つ、刃部は両面から加工し作りだしている。

341～357は石錘である。341、342は有溝石錘で、341は小ぶりな角礫を利用し、342は円礫を利用している。ともに利用石材は砂岩である。343は切目石錘で、楕円形で扁平な円礫を利用し、長軸の両端に切目を入れる。切目を設ける際に軸を揃えるためか、一端には3カ所に切目が見られる。利用素材は砂岩である。344～355、367は礫石錘である。楕円形もしくは円形に近い円礫を素材とし、長軸方向の両端に抉りを持つ。抉りは礫の両面から打ち欠いて抉りを作り出している。今回の調査で最軽量のは344で9.0g、最重量は357で1.113gを測る。利用石材は349が凝灰岩、それ以外が砂岩である。356、358、360は敲石から転用した石錘である。石錘には扁平な円礫を素材とする中、360は厚みのある素材を利用している。利用石材は砂岩である。359は砥石から転用した石錘である。楕円形の扁平な円礫を利用し、片面に擦痕が残る。利用石材は砂岩である。

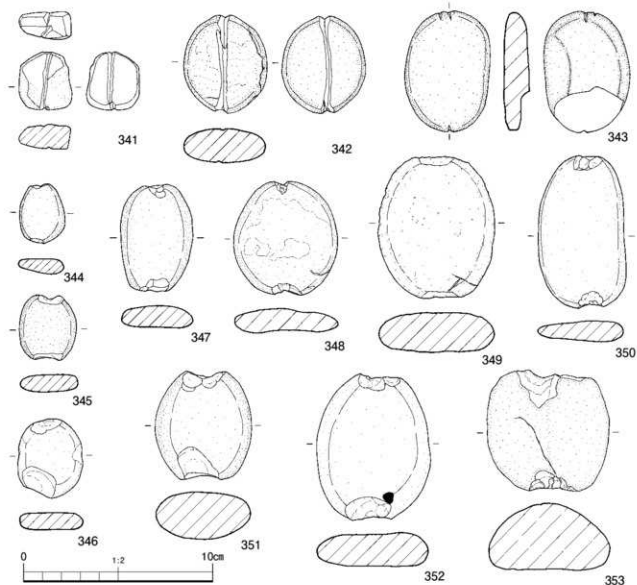
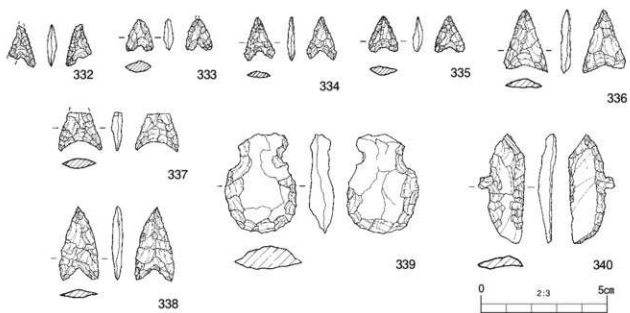
361～379は敲石である。いずれも敲打痕が残るが、一定の規則性は見られず、いずれもあらゆる部分を利用した痕が残るが、370のみは1面のみを何度も使用していたようである。372、374、375は素材が大きいため、石皿として使用していた可能性が高い。379は敲打痕が残る面の裏側に棒状の素材を研磨した深い溝が残る。利用石材は砂岩である。

380、382、383、385、386は砥石である。380、382、383は両面に、385、386は片面に砥き面が見られる。382は全縁に敲打痕が残る。利用石材はいずれも砂岩である。

381、384は磨石である。表面全体が平滑であるが、擦痕は残っていない。利用石材は381が尾鈴山酸性凝灰岩で、384が頁岩である。

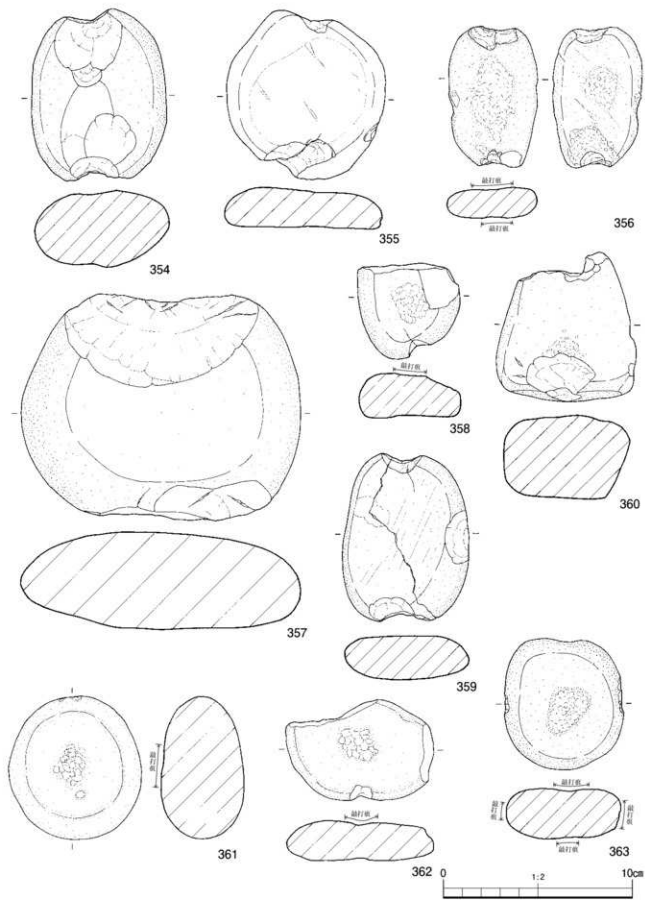
387～393は磨製石斧である。387はで敲打による整形後丁寧に磨かれている。刃部は両面に整形時の擦痕が残る。388は磨製石斧と考えられるが、風化が著しく敲打痕は残っていない。刃部に擦痕が残る。利用石材は砂岩である。390、391、393は整形時の敲打痕が全体に残る。391は刃部、基部の両端が欠損し、393は刃部が欠損する。390は基部に比べ刃部が幅狭であり、石斧とは別の用途が考えられる。利用石材は頁岩である。

394～407はスクレイパーである。394～399はスクレイパーと分類しているものの、同時に敲打痕が多数見られ、敲石としても利用していたことが考えられる。400は二等辺三角形様の剥片の側縁のみを刃部として利用している。401～404は断面形が三角形になる一群である。何れも一部に自然面が残る。402、403は直線状の刃部、404、405はカーブを描く刃部、406、407は側縁の一端を刃部としている。利用石材は400～403は砂岩、404～407は頁岩である。

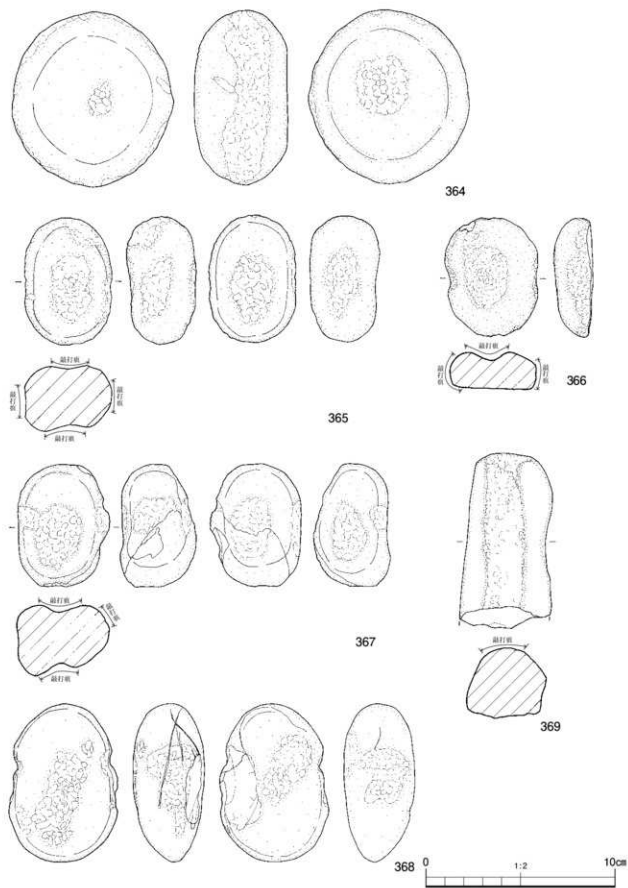


第53図 出土石器実測図① (2/3、1/2)

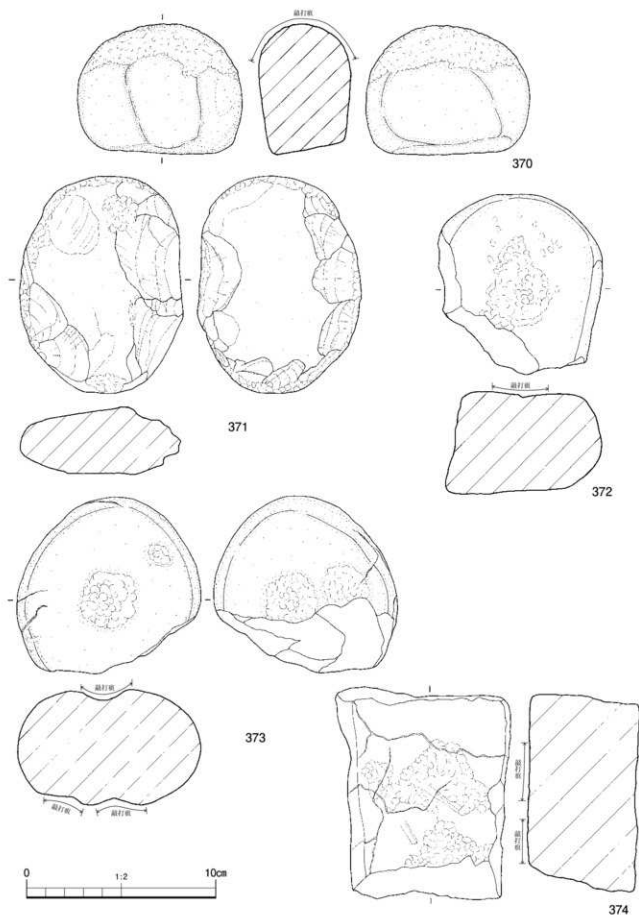




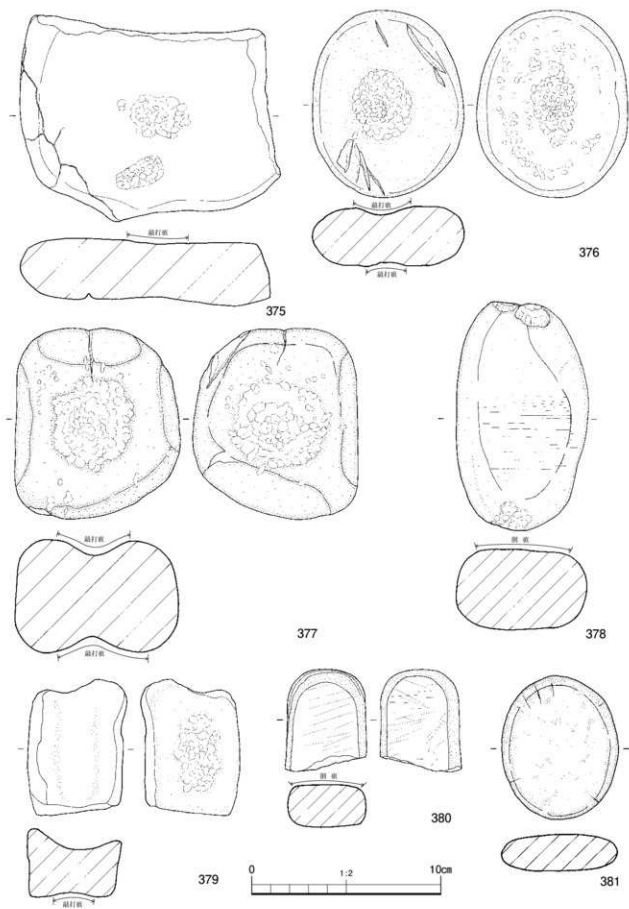
第54图 出土石器实测图②(1/2)



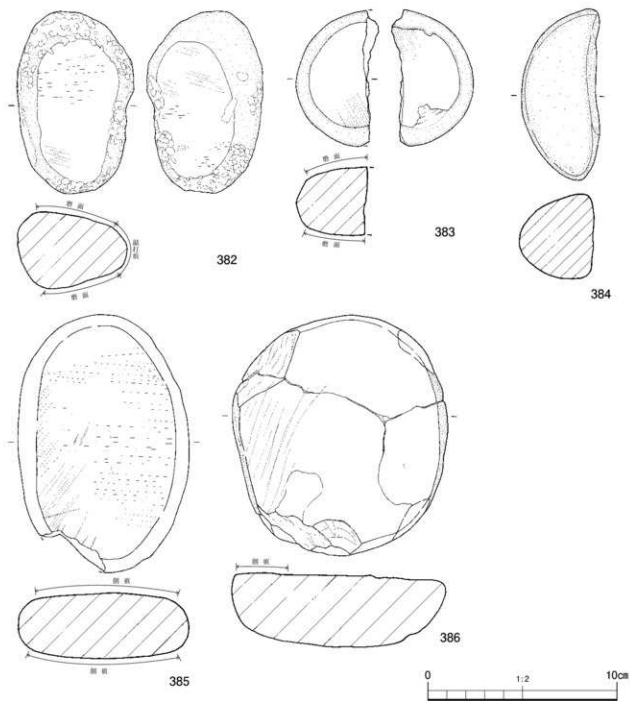
第55図 出土石器実測図③ (1/2)



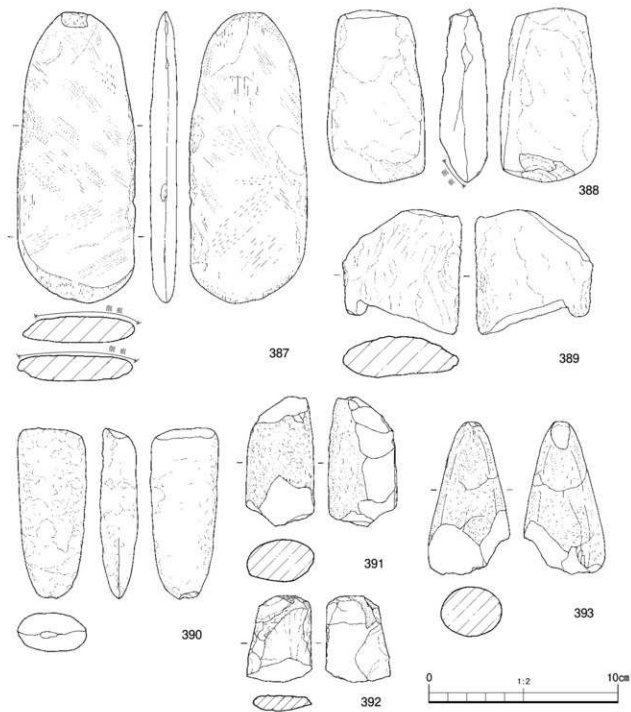
第56图 出土石器实测图④(1/2)



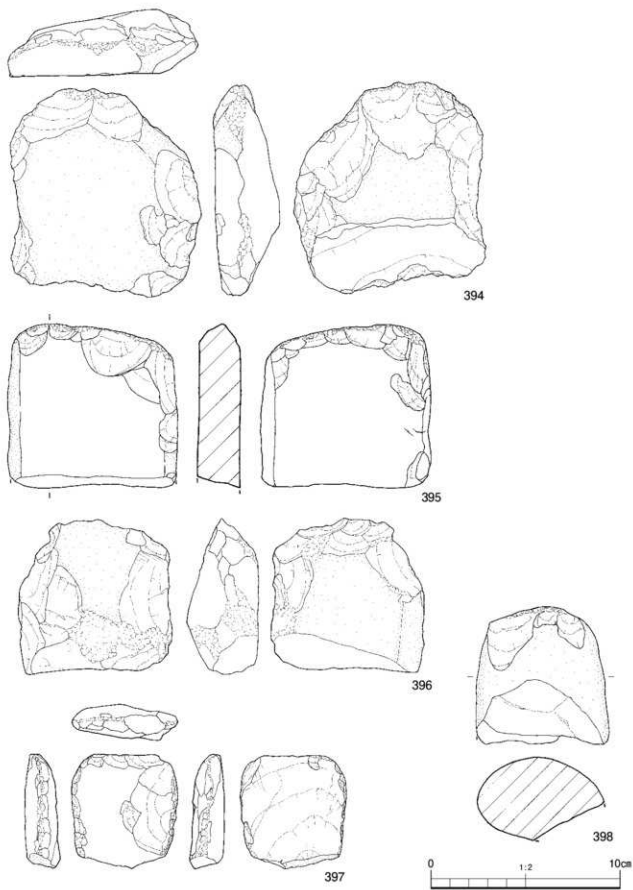
第57図 出土石器実測図⑤ (1/2)



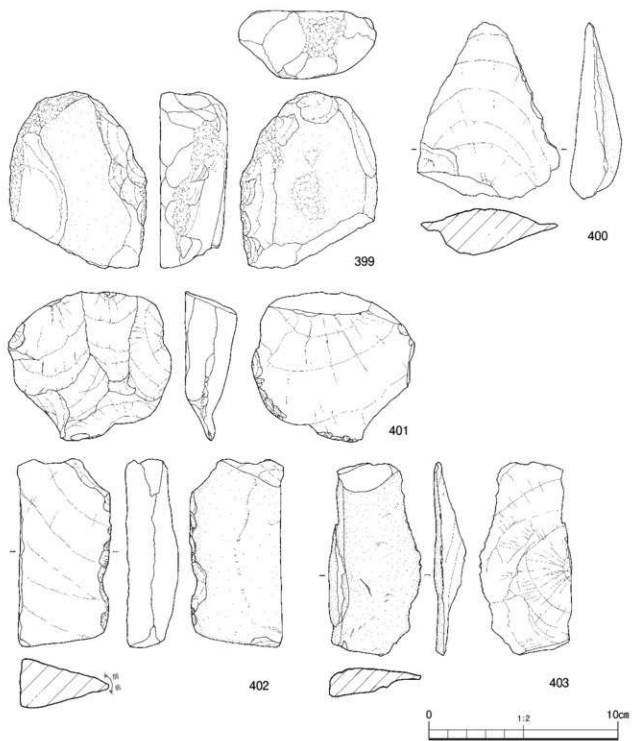
第58图 出土石器实测图⑥(1/2)



第59図 出土石器実測図⑦(1/2)

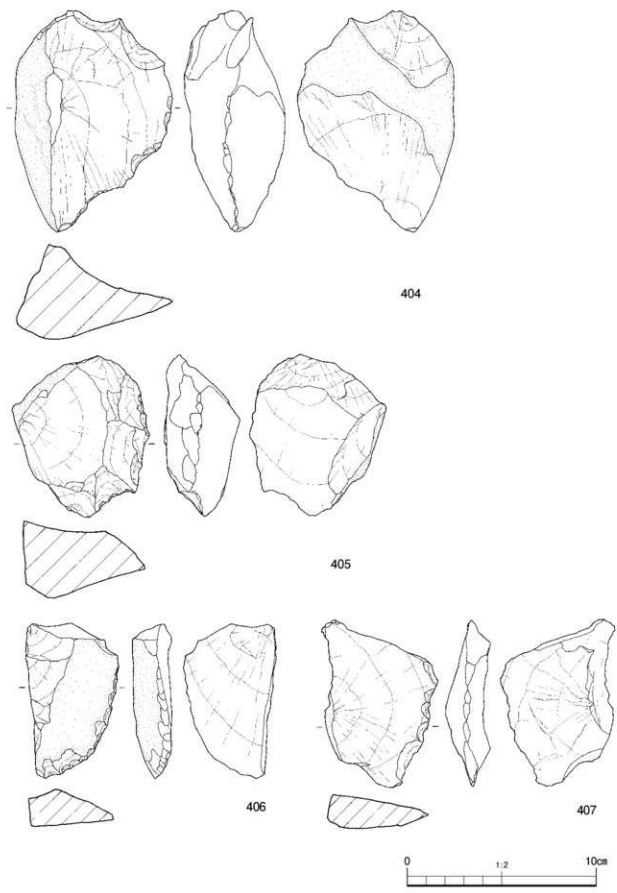


第60图 出土石器实测图⑧ (1/2)



第61図 出土石器実測図⑨(1/2)





第62图 出土石器实测图⑩ (1/2)

第15表 出土石器観察表①

掲載頁	図番号	掲載番号	遺構等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 No.
73	第53図	332	S C 1	石鏃	黒曜石	(1.7)	(1.1)	0.4	0.1	未製品 姫島産	661
		333	S C 1	石鏃	黒曜石	1.2	1.05	0.4	0.2	欠損品 姫島産	662
		334	A II層	石鏃	チャート	1.7	1.2	0.3	0.4		665
		335	A II層	石鏃	流紋岩系	1.4	1.2	0.4	0.4		666
		336	S Z 2	石鏃	チャート	2.5	1.7	0.45	1.3		663
		337	表面採集	石鏃	チャート	(1.5)	1.75	0.5	0.8	欠損品	668
		338	C I層	石鏃	玉髄	2.95	1.55	0.45	1.5		667
		339	A II層	石匙	玉髄	4	2.85	0.9	8.9		664
		340	A I層	石匙	流紋岩	1.85	4.85	0.7	3.6		669
		341	A I層	石錘	砂岩	3.05	2.8	1.35	16.2		627
		342	C II層	石錘	砂岩	5.2	4.4	1.8	54.4		602
		343	B I層	石錘	砂岩	6.45	4.55	1.35	59.9		609
		344	S C 1	石錘	砂岩	3.15	2.4	0.8	9		599
		345	B I層	石錘	砂岩	3.5	3.09	0.9	14.3		590
		346	A I層	石錘	砂岩	4.15	3.45	0.95	18.3		589
		347	A I層	石錘	砂岩	5.5	3.3	1.2	43.4		588
		348	A I層	石錘	頁岩	6	5.5	1.25	62		587
		349	SE 2	石錘	凝灰岩	7.5	6.15	2.15	104.4		597
		350	A I層	石錘	砂岩	8	4.55	1.05	67		585
		351	C II層	石錘	砂岩	5.75	5.15	2.45	100.7		592
352	SE 1	石錘	砂岩	7.75	6	1.8	130.1		595		
353	A II層	石錘	砂岩	6.45	6.45	3.6	206.3		638		
74	第54図	354	A I層	石錘	砂岩	9.05	8.15	4.1	323.2		586
		355	表面採集	石錘	砂岩	8.45	8.9	2.1	198.6		598
		356	A II層	石錘	砂岩	7.5	4.72	1.68	95.5		657
		357	C II層	石錘	砂岩	12	14.8	5.15	1113.1		593
		358	C II層	石錘	砂岩	5.05	5.4	2.35	87.3		591
		359	C II層	石錘	砂岩	8.85	6.7	2.3	197		594
		360	S Z 1	石錘	砂岩	7.9	7.45	4.45	342.9		596
		361	表面採集	敲石	砂岩	7.6	7.05	4.45	29.5		633
		362	A I層	敲石	砂岩	5.35	7.8	2.1	115.3		631
		363	C II層	敲石	砂岩	7	6.3	2.65	173.4		603
75	第55図	364	C I層	敲石	砂岩	9.25	8.55	5	508.2		621
		365	C II層	敲石	砂岩	6.6	4.6	3.4	165.4		628
		366	A II層	敲石	砂岩	6.28	2.1	2	86.2		659
		367	A I層	敲石	砂岩	6.5	4.85	4.9	143.2		625
		368	A III	敲石	砂岩	8.4	5.78	3.7	225.1		630
		369	C I層	敲石	砂岩	9.3	4.9	3.7	266.5		613

第16表 出土石器観察表②

掲載頁	図番号	掲載番号	通稱等	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (kg)	備考	実測 No.		
76	第56図	370	B I層	礫石	砂岩	6.9	8.7	4.9	382.8		612		
		371	S Z 1	礫石	頁岩	11.5	8.7	3.6	536.6		620		
		372	C II層	礫石	砂岩	9.5	8.7	5.4	592.2		622		
		373	S E 3	礫石	砂岩	9.3	9.75	6.1	658.1		623		
		374	S Z 2	礫石	砂岩	11.3	9.3	5.95	993.1		635		
77	第57図	375	S Z 2	礫石	砂岩	13.8	10.8	3.2	782.1		632		
		376	表面採集	礫石	砂岩	9.9	8	3.15	359.7		617		
		377	B II層	礫石	砂岩	10.1	8.7	6	784.7		616		
		378	C I層	礫石	砂岩	12.15	7	4.25	520.7		619		
		379	A II層	礫石	砂岩	7.2	5.25	3.65	165.6		626		
		380	表面採集	礫石	砂岩	5.45	4.35	2.25	80		660		
		381	S Z 2	礫石	凝灰岩	7.6	6.15	1.95	133.3	尾鈴酸性岩	600		
		382	S Z 2	礫石	砂岩	9.65	6.2	4.1	324.8		651		
78	第58図	383	S Z 2	礫石	凝灰岩	7.2	4.35	3.8	152.9	尾鈴酸性岩	615		
		384	A II層	礫石	砂岩	9.05	4.15	3.9	244		607		
		385	S Z 1	礫石	砂岩	13.6	9	3.5	661.3		605		
		386	C II層	磨石	砂岩	12.75	11.4	3.9	754.6		608		
79	第59図	387	A I層	石斧	頁岩	15.4	6.2	1.4	233.5	磨製	637		
		388	A I層	石斧	砂岩	9.2	5.3	2.5	169.5		641		
		389	S E 1	石斧	砂岩	6.6	6.3	2.2	124.7		638		
		390	S E 1	石斧	砂岩	9.05	3.6	2.05	100		655		
		391	B I層	石斧	頁岩	6.85	3.65	2.25	79		633		
		392	S E 1	石斧	泥岩	4.68	3.3	0.85	19	磨製	652		
		393	表面採集	石斧	頁岩	8.1	4.3	2.55	118.7		654		
		80	第60図	394	A II層	スクレイパー	頁岩	10.1	10.1	3.4	446.8	敲打痕	640
				395	C I層	スクレイパー	砂岩	8.6	9	2.35	371.8	敲打痕	606
396	A I層			スクレイパー	砂岩	8.2	8.2	3.75	323.5	敲打痕	643		
397	A II層			スクレイパー	砂岩	6.05	5.65	1.9	79.7	敲打痕	644		
398	S Z 1			スクレイパー	砂岩	7.25	7.05	4.4	266.8	敲打痕	610		
81	第61図	399	表面採集	スクレイパー	砂岩	9.38	7.25	3.55	331.4	敲打痕	642		
		400	S E 1	スクレイパー	砂岩	9.35	7.55	2.45	120.5		639		
		401	A I層	スクレイパー	砂岩	7.9	8.65	2.7	161.3		646		
		402	A II層	スクレイパー	砂岩	9.95	4.9	2.8	154.5		656		
		403	A I層	スクレイパー	砂岩	10.28	4.9	1.5	64.5		650		
82	第62図	404	表面採集	スクレイパー	砂岩	11.7	8.35	5.3	332.8		649		
		405	A II層	スクレイパー	頁岩	8.55	7.25	4.1	228.4		648		
		406	C II層	スクレイパー	頁岩	8.2	4.98	1.95	84.8		647		
		407	S E 1	スクレイパー	頁岩	8.85	6.1	1.8	88.8		645		

## 第IV章 総括

### 第1節 縄文時以外の遺構について

今回の調査で縄文期以外の遺構が確認されたのはC区のみである。池状遺構、1号溝状遺構、2号溝状遺構、4号溝状遺構、3号土坑、4号土坑である。2基の土坑に関しては検出状況から、4号溝状遺構に伴う遺構と考えられるが、それ以外の遺構は埋土中から9～10世紀に相当する土師器、須恵器が出土しており、相当期に使用された遺構と考えられる。本文中でも述べたように池状遺構と1号溝状遺構は遺構同士の先後関係を確認できず、同時期に使用された遺構と考えられる。これまでに述べたように遺跡の傍らには山塊が迫っており、特にC区の延長上には山塊の谷部が控えていることが確認できる。その谷部の出口付近の水を得やすい地点に設けられ、土層の最下層でグライ化が確認でき、調査中も常に湧水のあったこの池状遺構は溜め井として機能していたと考えられ、底面が池状遺構とは反対側に向かって下り勾配になる1号溝状遺構はその排水用の溝だったと考えたい。

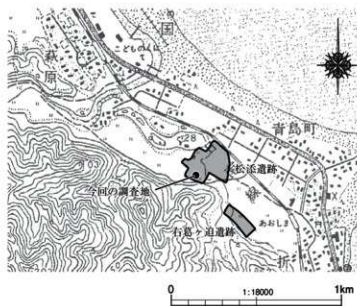
### 第2節 縄文時代の松添遺跡の環境

今回の調査で確認された遺物の大半はA区、B区の基本層序Ⅱa層、Ⅱb層の遺物包含層からの出土であった。A区Ⅱa層の遺物出土が集中する範囲、C区Ⅱb層の遺物出土が集中する範囲ともにそれぞれ偏りが見られ、調査区外への遺物の分布の広がりを見る。その先にあるのが平成5年に宮崎市が発掘調査を実施した調査区にあたる。(第2図)この調査区はG区と付され、調査区全面で縄文時代後期から晩期にかけての高密度の遺物包含層が確認されている。今回の調査で確認されたⅡa層、Ⅱb層の遺物集中出土範囲は平成5年調査のG区で確認されたその縁辺部が捉えられたものと考えられる。昭和20年代からの松添貝塚の学術調査を含め、松添遺跡では今回の調査を合わせ、約9800㎡を面的に発掘調査したことになる。特に平成4年から7年にかけて実施された土地区画整理事業に伴う発掘調査では、縄文時代後期晩期の土器を主体とする遺物がパンケース換算で合計1800箱以上出土しており、当該地で大規模な縄文期の集落を想起することができるが、検出された遺構は、集石遺構が1基、円形の土坑が2基確認されたのみで、遺物量に見合うほどの遺構は確認されていない。当時の調査担当者は、特に遺物が集中して出土した場所は、調査時も水がよく湧く場所であったため、本来、遺構を設けるには適さない環境だったとしており、当該地は縄文時代後期後半から晩期の間は土器廃棄場として利用されていたのではないかと結論付けていた。

今回実施された発掘調査においても縄文時代後期晩期の土器は合計160箱以上したが、縄文時代に相当すると考えられる遺構はA区で検出された1号土坑、2号土坑の2基のみであった。

宮崎市田野町にある本野原遺跡は約9000㎡の範囲に縄文時代後期を中心とする堅穴建物113軒、掘立柱建物などが確認されており、西日本最大級の縄文集落とされる。その本野原遺跡でも出土量は約450箱である。松添遺跡の合計2000箱近くになるその出土量は突出しており、傍らに大規模な集落があったことを想起せざるを得ない。第1章で述べたように、遺跡の南西側に控える山塊上には縄文集落を形成できる平坦な土地は見当たらないため、丘陵上で生活を営む人々がもたらした遺物とは考えにくい。

松添遺跡のある海岸線に平行して形成された長さ約3.0km、幅0.3~0.5m、標高11.0m程の砂丘には、右葛ヶ迫遺跡、納屋向遺跡などの縄文期の遺跡が点在する。中でも右葛ヶ迫遺跡と松添遺跡は直線距離で300mと近く、調査では縄文時代中期～晩期の竪穴建物2軒、集石遺構8基確認されている。右葛ヶ迫遺跡も遺跡の傍らまで山塊が迫っており、調査で確認された縄文期の遺構の広がりには海側の砂丘上には砂丘上に営まれた集落の縁辺部のとも考えられ、集落本体は海に向かって広がる砂丘上に形成される可能性がある。



第63図 昭和40年頃の松添遺跡の周辺地形（1/18000）



調査地遠景（宮崎市街地方面を望む）【南から】



調査地遠景（青島本島を望む）【西から】

図版 2



A区Ⅱ層検出状況 [上空から]



A区Ⅱ層遺物出土状況① [北から]



A区Ⅱ層遺物出土状況② [南から]



A区Ⅱ層遺物出土状況③



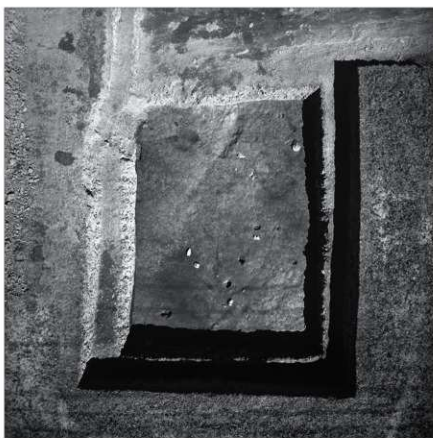
A区Ⅱ層遺物検出状況



左上：A区1号土坑遺物出土状況〔東から〕

右上：A区2号土坑遺物出土状況〔東から〕

左下：A区3号溝状遺構遺物出土状況〔東から〕



B区V層検出状況〔上空から〕



図版 4



C区V層検出状況 [上空から]



C区調査風景 [東から]



1号溝状遺構、池状遺構遺物出土状況 [南から]



池状遺構遺物出土状況 [東から]



1号溝状遺構土層堆積状況 [西から]



谷状の窪み遺物出土状況 [南から]